

### 1) 地区の概況

- ①本地区は市の中央部に位置し、西は長崎港に面し、北に金比羅山、東には彦山、烽火山を控え、南は唐八景に連なる斜面地に取り囲まれ、中島川などの川沿いに平地があります。
- ②元亀2(1571)年の長崎開港以来、長崎の商業・業務の中心地として発展を続け、今日においても政治・経済の中枢機能や商業・業務機能が集積する都心部を形成しています。
- ③長崎市の沿革・歴史を代表する地区であり、多くの文化遺産が存在するとともに、県都としての都市機能を集積してきました。昭和57年の長崎大水害では、本河内、鳴滝地区で多大な被害を受け、中島川流域の浸水被害なども甚大でした。

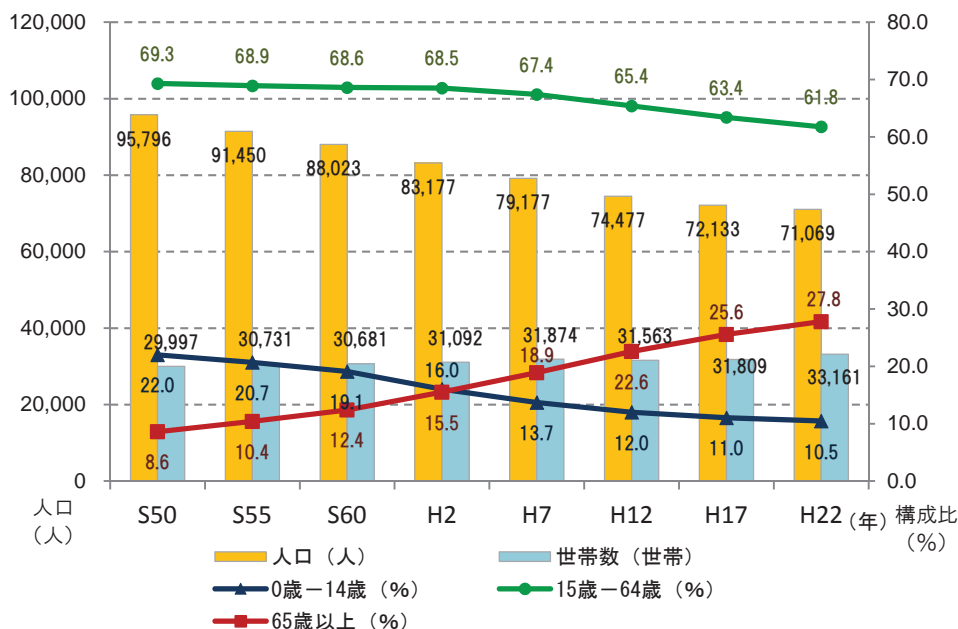
◎位置図



### 2) 地区の現況と特性

- ①平成26年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の6.3% (2,540.4ha) であり、市街化区域面積は地区の36.2% (920.3ha) となっています。
- ②平成22年国勢調査の地区人口は71,069人で、昭和50年の95,796人と比較して減少しています。世帯数は、昭和50年の29,997世帯から平成22年で33,161世帯と増加しています。1世帯当たり人員は2.1人となっており、市平均の2.4人を下回っております。
- ③65歳以上の人口割合は27.8%で、市平均の25.0%とほぼ同様となっています。

◎人口・世帯数の推移



- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成47年には本地区人口は約62,100人まで減少することが予測されています。
- ⑤港湾都市長崎の歴史と文化の中心となる商業・業務地区が形成され、陸上・海上交通における長崎市の玄関口となっています。長崎県や西九州の行政・経済の中心として、県庁、長崎税関をはじめとする高次都市機能が集積しています。
- ⑥市街地は、海岸線から中島川・西山川・銅座川流域の低地とこれに繋がる傾斜地を中心に、旧来からの市街地と西山台、三景台、愛宕団地、白木団地などの住宅団地によって形成されています。
- ⑦本地区の北部には金比羅風致地区や、中心部には風頭・寺町風致地区、東部には彦山風致地区、南部には唐八景風致地区が指定され、自然環境が保全されています。
- ⑧市民アンケート調査の「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、市全体と比較して「自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり」と答えた人の割合が特に高くなっています。

### ◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	リフォームの指導や支援	公共交通の便数や路線の充実	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	環境に配慮した公共施設の整備	自然災害対策
全体	34%	32%	21%	32%	34%	24%	28%
中央東部	34%	30%	18%	32%	32%	24%	28%

### ◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全体	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
中央東部	198人	85人	35人	19人	14人	11人	32人	2人
	100.0%	42.9%	17.7%	9.6%	7.1%	5.6%	16.2%	1.0%

凡例 1位 2位 3位

### 3) 地区の主要課題

#### ①安全・安心で快適な住環境の確保

斜面市街地においては、自動車の通行が困難な住宅地が多いことから、空き家の増加や住民の高齢化が進んでおり、防災性を考慮した安全で安心な住環境の確保が必要です。

#### ②都市機能の集積・誘導

既存の官公庁施設等の配置を考慮して、中枢管理機能、文化機能、医療・福祉等の都市機能の集積・誘導が必要です。

#### ③中心市街地の高度利用と機能の複合化

中心市街地の限られた土地の有効利用を図るため、高度利用や商業・業務と住宅等の機能の複合化が求められています。

#### ④都心における交通渋滞の緩和、アクセス性の向上

都心において交通渋滞が生じていることから、その緩和を図るため、公共交通機関の利用環境の更なる向上と、周辺部からのアクセス性の向上を図る必要があります。

#### ⑤高速交通網の整備と交通結節点の機能強化

高速交通網の整備を図るため、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の整備促進とJR長崎駅の交通結節点としての機能強化が求められています。

#### ⑥文化的・歴史的資源の整備・活用

「出島和蘭商館跡」等の多様な文化的・歴史的資源を有するため、その整備と活用が求められています。

#### ⑦市街地内の緑地の整備と周辺緑地の保全

風頭・寺町風致地区などの貴重な緑地が市街地内に分布するため、緑地の保全・整備と周辺緑地の保全が必要です。

### 4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

## 都心部における賑わいと活力のある計画的な地区づくり

### 5) 地区の生活像の目標

#### 住む：都心部・都心周辺部の利便性を活かした住み良い快適な暮らしの確保

都市機能が集積した利便性の良い暮らしの確保を図ります。また、斜面市街地においては、地域との協働による居住環境の向上や防災性の確保を目指します。

#### 働く：都心部・都心周辺部としての商業・業務と観光を中心とした雇用の場の充実

都心部・都心周辺部としての商業・業務と観光地における雇用の場の充実を目指します。

#### 動く：陸の玄関口としての広域アクセスの充実と、安全で安心な道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、地域拠点や生活地区との公共交通による連携を目指します。

#### 集う：都心部・都心周辺部としての都市機能の集積と交流の促進

都心部・都心周辺部としての都市機能の集積を行い、利便性の向上を図ります。また、出島和蘭商館跡などの歴史的な資源の活用により交流の促進を目指します。

#### 学ぶ・育む・やすらぐ

#### ：豊かな自然環境と市街地の共存と歴史的景観の保全、学びの場の充実

市街地を取り囲む金比羅山などの自然環境の保全を図ります。また、文化施設の有効活用や中島川などにおける良好な景観の形成を目指します。

## 6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	<p><b>■都心部・都心周辺部の利便性を活かした快適な暮らしを確保する</b></p> <p>①生活利便性の高い都心部・都心周辺部では、周辺環境に配慮した都市型居住を促進します。</p> <p><b>■行政と地域の協働による斜面市街地の環境改善に取り組む</b></p> <p>①都心部に近接している斜面市街地においては、地域の協力を得ながら居住環境の改善と防災性の向上を図る「斜面市街地再生事業」や「車みち整備事業」、「老朽危険空き家対策事業」などに取り組みます。</p> <p>②斜面移送機器（リフト）などの斜面交通システムの適切な運用に努めます。</p> <p><b>■住み良い生活環境を確保する</b></p> <p>①都市基盤施設が未整備な密集住宅地においては、生活道路や公園等の整備を図り、防災性を考慮した住環境を形成します。</p> <p>②本河内地区において、市営住宅の建替えなどを推進し、都市基盤施設を更新するとともに、快適で利便性の高い良好な住宅市街地の形成を図ります。</p> <p>③本河内浄水場は、適正な維持・管理を行います。</p>
働く	<p><b>■行政運営の安全性・効率性を高める</b></p> <p>①旧公会堂及び公会堂前公園敷地において、新市庁舎の建替えを推進します。</p> <p>②新県庁舎の建設や防災緑地の整備を促進します。</p> <p><b>■雇用の場を確保する</b></p> <p>①都心部・都心周辺部においては、地震・津波が少ないという優位性を活かした本社機能の移転など、オフィス系企業の立地による良質な雇用の創出を図ります。</p> <p>②地域の持つ観光資源等を活かした交流人口の拡大により、雇用の場の確保を図ります。</p> <p>③高速道路の周辺など広域アクセスの良好な場所では、周辺環境に配慮しながら、新たな流通業務地の形成を検討します。</p> <p><b>■産業基盤を確保する</b></p> <p>①農林業の経営・生産基盤の強化を図ります。</p>
動く	<p><b>■安全で快適な道路を整える</b></p> <p>①放射環状型幹線道路網を形成する都市計画道路長崎外環状線の整備や国道34号、新日見トンネルの4車線化を促進します。</p> <p>②交通アクセスの強化及び円滑化を図るため、都市計画道路大黒町恵美須町線や市道中川鳴滝3号線の整備を推進します。</p> <p>③銅座川プロムナードの整備と併せて、都市計画道路銅座町松が枝町線の整備を推進します。</p> <p>④（仮）西山浦上線（構想）については、整備効果等を見極めながら、長期的に検討します。</p> <p>⑤観光地周辺や中心商業・業務地区では、円滑な道路交通や安全で快適な歩行空間を確保するとともに、駐車場などの有効活用を図ります。</p> <p>⑥浦上川右岸地区との連携を強化するため、旭大橋の低床化により、歩行者動線の強化を検討します。</p> <p><b>■公共交通の利用を高める</b></p> <p>①九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の建設に併せて、JR長崎駅新駅舎の整備を促進します。</p>

<p style="text-align: center;">動 く</p>	<p>②地区内では JR が運行され、また、主要な道路では、バス、路面電車が運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p> <p>③拠点周回バスを含む公共交通機関の運行ルート見直しを検討します。</p> <p>④公共交通空白地域の解消を図るため、乗合タクシーの適正な運行に努めます。</p> <p>⑤長崎駅前、馬町・新大工地区などにおける電停のバリアフリー化を促進します。</p> <p>⑥長崎港（大波止ターミナル）は長崎市の海の玄関口として、伊王島地区や高島地区、五島列島への航路を有し、観光・レクリエーション活動を支える港湾として、港湾機能の維持・充実を図ります。</p>
<p style="text-align: center;">集 う</p>	<p><b>■都心部・都心周辺部としての都市機能を集積する</b></p> <p>①中心市街地においては、長崎市の都心部として、土地利用の高度化により、官公庁施設をはじめとする中枢管理機能、交通拠点機能、商業拠点機能、文化機能、医療・福祉機能などの集積・誘導に努めます。</p> <p>②賑わいと回遊性のある魅力的な都市空間を形成するため、特別用途地区等を活用し、低層階部分への店舗や文化施設などの誘導を検討します。</p> <p>③浜町、新大工町などの商業地においては、市街地再開発事業を促進するとともに、商業機能や居住機能の誘導に努めます。</p> <p>④九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の建設や、JR 長崎本線連続立体交差事業を促進するとともに、これらと一体となった長崎駅周辺土地区画整理事業により、市街地の再整備を推進します。</p> <p><b>■観光に磨きをかける</b></p> <p>①観光地でもある風頭公園（龍馬像）については、来訪者が利用しやすい施設の充実に努めます。</p> <p>②史跡「出島和蘭商館跡」の復元整備や出島表門橋の架橋とあわせて、市道出来大工町江戸町線、中島川公園の一体的な整備を行います。</p> <p>③歴史的・文化的遺産である出島和蘭商館跡や中島川石橋群、寺町の社寺、シーボルト宅跡の連携を強化し、賑わいと回遊性のある魅力的な空間を強化します。</p> <p>④「長崎さるく」等のまち歩き観光を推進するため、歴史の面影が感じられるまちなみを分かりやすく巡るルートづくりとともに、来訪者にやさしく分かりやすいサインの設置などに取り組みます。</p> <p><b>■交流施設を確保する</b></p> <p>①長崎駅周辺の再整備と併せて、交流拠点施設の整備を検討します。</p> <p>②質の高い芸術文化に対応できる、ホール機能等を有した新たな文化施設の整備を図ります。</p> <p>③芸術文化の振興や豊かな市民生活の向上などに寄与する市民会館文化ホールや市民生活プラザホール（メルカつきまち）は、今後も適切な維持・管理を行います。</p> <p>④中央公民館や老人福祉施設については、適正な維持・管理を行うとともに、ふれあいセンター等のコミュニティ施設については、近隣の既存施設（学校施設、空き施設等）を利用した施設の再配置等により、地域活動の拠点として充実を図ります。</p> <p>⑤県庁舎跡地については、人々が集い、交流することで、今以上の賑わいを創出できる効果的な活用策となるよう、県との協議に取り組みます。</p>

### ■文化施設等を整える

- ①狭あいでの老朽化が進んでいる長崎県立長崎図書館は、郷土資料部門を担う「県立図書館郷土資料センター（仮）」として、再整備の検討を促進します。
- ②長崎県美術館については、芸術文化活動に親しむ機会の創出を図るため、施設の有効活用に努めます。
- ③長崎歴史文化博物館については、長崎の海外交流史や長崎学の紹介、資料の収集・保存・研究・活用とともに、生涯学習の場として、施設の充実やその他施設における展示物の集約化等を図ります。

### ■歴史的まちなみを再現する

- ①長崎の和の文化を色濃く残す中島川・寺町地区においては、「中島川・寺町地区まちなみ整備助成制度」を活用し、既存の町家の維持・保全及び復元など、町家等を活かしたまちなみづくりを進めます。

### ■良好な景観を誘導する

- ①景観形成重点地区に位置付けている中島川、寺町地区では、都市的な賑わい、楽しさを演出する伝統、文化に裏づけられ、ゆとり、潤いのある都市景観や地域の個性を活かして、多彩な表情、場の景観がストーリー性豊かに表現される景観形成を図るとともに、訪れる人にとって分かりやすく、親しみのもてる景観への誘導を図ります。

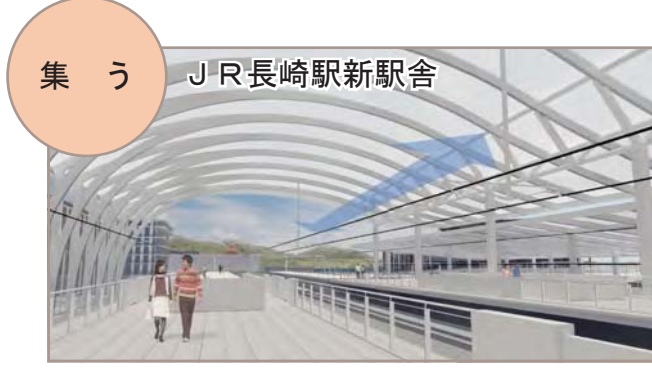
### ■みどり豊かな自然環境を守り育てる

- ①金比羅山、彦山、唐八景、烽火山など市街地を取り囲む良好な自然環境を保全します。
- ②身近な自然とふれあいや余暇活動の場となる金比羅公園等の整備に取り組みます。
- ③風頭・寺町風致地区、諏訪の森、愛宕山など市街地内の貴重なみどりを保全します。また、市街地内のみどりを創出します。
- ④諏訪神社背後の長崎公園は、歴史・文化を有する市街地内の貴重な緑地として維持・保全します。
- ⑤花のあるまちづくりを推進するため、エリアごとに花をテーマに通りや公共施設の植栽の統一を図ります。

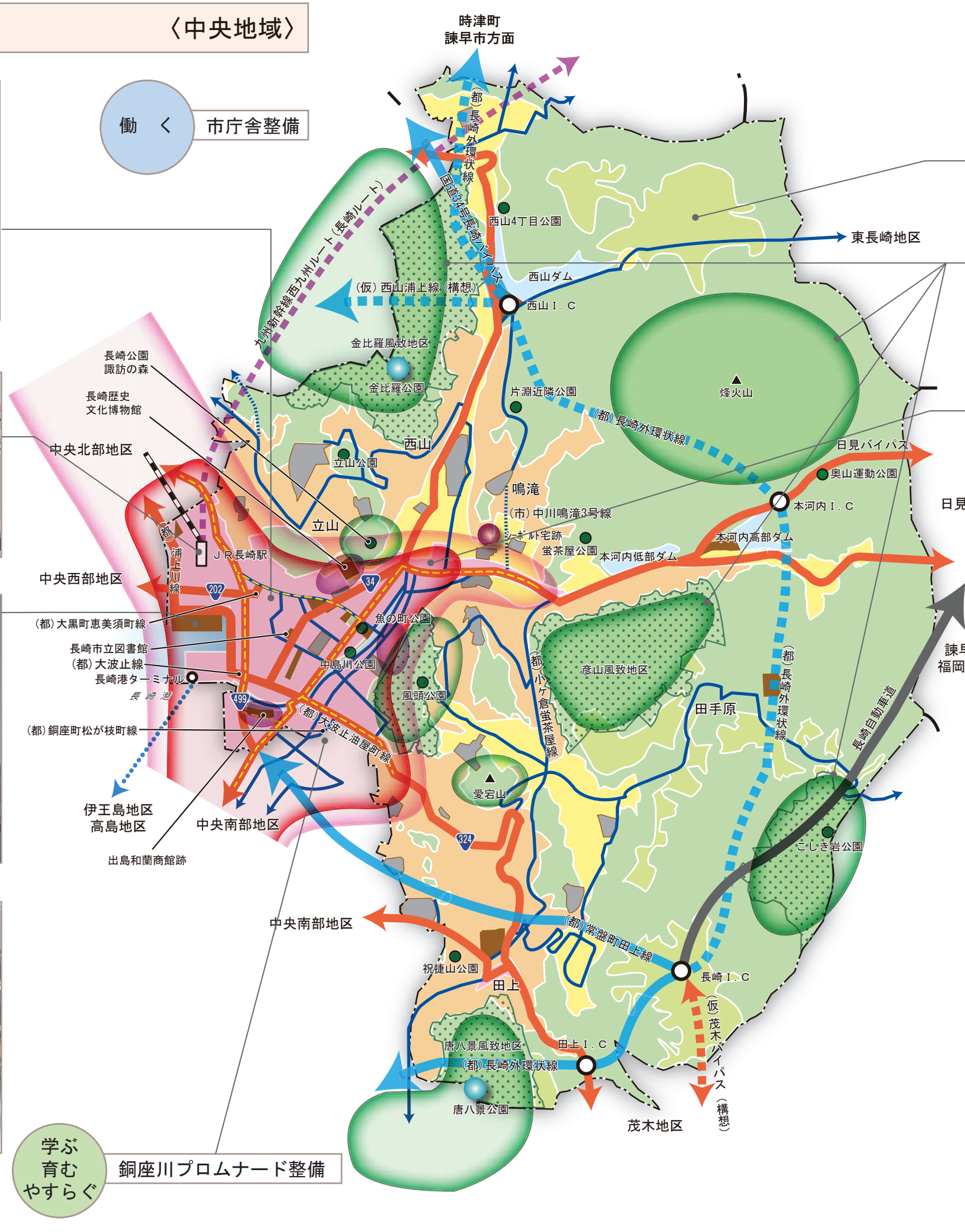
### ■親しみのある水辺環境を創る

- ①市民や観光客の潤い空間として、河川が有する多様な生態系や変化に富む美しい景観との調和に配慮しつつ、河川や周辺環境の特性に応じて、中島川公園、岩原川や銅座川プロムナード等の整備など、水辺空間の形成に努めます。
- ②本河内高部ダムや本河内低部ダム、西山ダムにおいては、良好な水辺空間の保全を図ります。

(1) 中央東部地区 地区別構想図 <中央地域>



働く 市庁舎整備



住む 都市型居住の促進

働く 農林業経営・生産基盤の強化

学ぶ育む やすらぐ 良好な自然景観・緑地の保全



● 都心部	● 産業エリア	● 緑のエリア
● 都心周辺部	● 歴史・文化・景観エリア	● 公園・風致地区
● 地域拠点	● スポーツ・レクリエーションエリア	● 農林水産資源
● 生活地区	● 緑のエリア	● 地区界
		● 都市計画区域界

【エリア】	● 産業エリア	● 緑のエリア
● 都心部	● 歴史・文化・景観エリア	● 公園・風致地区
● 都心周辺部	● スポーツ・レクリエーションエリア	● 農林水産資源
● 地域拠点	● 緑のエリア	● 地区界
● 生活地区		● 都市計画区域界

【土地利用】	● 高速道路	● 主要幹線道路 (計画・構想)
● 斜面市街地	● 自動車専用道路等 (計画・構想)	● 補助幹線道路 (計画・構想)
● 住宅地	● 商業業務地	● 補助幹線道路 (計画・構想)
● 商業業務地	● 工業地・港湾	● 新幹線
● 工業地・港湾	● 流通業務地	● 鉄道
● 流通業務地	● 公園・緑地・自然環境の保全地	● 路面電車
● 公園・緑地・自然環境の保全地	● 農地環境の保全地	● 航路
● 農地環境の保全地	● その他	
● その他	● 水面	
● 水面	● 学校教育施設	
● 学校教育施設	● 大規模公共施設	
● 大規模公共施設	● その他の施設	
● その他の施設	● 公園・風致地区	
● 公園・風致地区	● 農林水産資源	
● 農林水産資源	● 地区界	
● 地区界	● 都市計画区域界	
● 都市計画区域界		

※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。

### 1) 地区の概況

- ①本地区は長崎港の西岸に位置し、稲佐山山頂から長崎港に至る斜面地と臨海部から構成されています。
- ②安政4年（1857年）飽の浦に長崎溶鉄所が建設されて以来、造船業を中心とした工業が発展した地区であり、また魚市場が三重へ移転するまでは漁業基地として、長崎市の基幹産業を支えてきた地区です。
- ③地区の北側は、戦災復興都市計画事業や宅地開発により住宅地として発展してきましたが、背後に稲佐山公園区域を控えた急峻な斜面地であることから、宅地開発に制限があります。

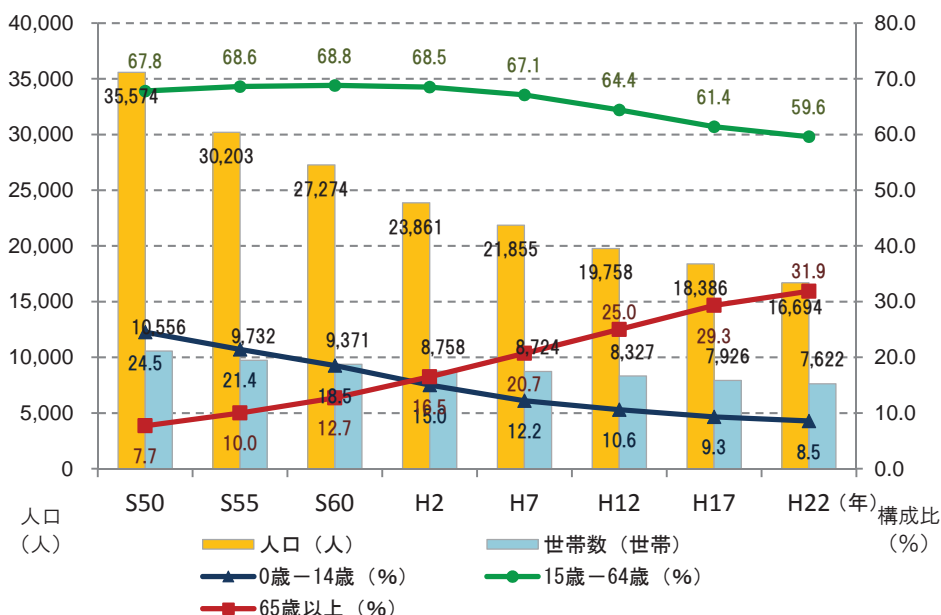
◎位置図



### 2) 地区の現況と特性

- ①平成26年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の1.5%（598.0ha）であり、市街化区域面積は地区の54.8%（327.9ha）となっています。
- ②平成22年国勢調査の地区人口は16,694人で、昭和50年の35,574人と比較して減少しています。世帯数は、昭和50年の10,556世帯から平成22年で7,622世帯と減少しています。1世帯当たり人員は2.2人となっており、市平均の2.4人を下回っております。
- ③65歳以上の人口割合は31.9%と市平均25.0%を大きく上回っています。
- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成47年には本地区人口は約10,700人となることが予測されています。
- ⑤長崎港の臨海部において造船業を中心とする工業地が形成され、その背後の稲佐山の山麓には斜面住宅地が形成されています。

◎人口・世帯数の推移





- ⑥稲佐山は良好な自然環境が保全され、市民のレクリエーションの場とともに、中心市街地を眺めることができ、世界新三大夜景に選定された絶好の展望場所として観光の名所となっています。
- ⑦市民アンケート調査の「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、「安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり」や「働く環境が整ったまちづくり」と答えた人の割合が他地区と比べ高くなっています。

### ◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	リフォームの指導や支援	公共交通の便数や路線の充実	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	環境に配慮した公共施設の整備	自然災害対策
全体	34%	32%	21%	32%	34%	24%	28%
中央西部	33%	31%	20%	32%	29%	30%	38%

### ◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全体	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
中央西部	46人	23人	11人	3人	3人	0人	5人	1人
	100.0%	50.0%	23.9%	6.5%	6.5%	0.0%	10.9%	2.2%

凡例 1位 2位 3位

## 3) 地区の主要課題

### ①安全・安心で快適な住環境の確保

斜面市街地においては、自動車の通行が困難な住宅地が多いことから、空き家の増加や住民の高齢化が進んでおり、防災性を考慮した安全で安心な住環境の確保が必要です。

### ②長崎港沿いの市街地へのアクセス性の向上

長崎港沿いでは、市街地へ集中する交通渋滞が発生していることから、市街地への交通アクセスの向上を図る必要があります。

### ③工業地における生産環境の確保

長崎市の基幹産業である造船業等の振興を図るため、工業地において安全で効率よく生産活動できる環境を確保する必要があります。

### ④稲佐山公園の保全・整備・活用

長崎市の夜景の魅力づくりを進めるため、稲佐山公園の保全・整備と活用が求められています。

### ⑤市街地内の緑地の整備と周辺緑地の保全

市街地内には貴重な緑地が分布し、稲佐山周辺は観光シンボルとして重要であるため、市街地内緑地の保全・整備、稲佐山周辺の緑地の保全と景観まちづくりが求められています。

#### 4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

### 豊かな自然と工業地が調和した住み良い地区づくり

#### 5) 地区の生活像の目標

##### 住む：都心周辺部の利便性を活かした住み良い快適な暮らしの確保

都市機能が集積した利便性の良い暮らしの確保を図ります。また、斜面市街地においては、地域との協働による居住環境の向上や防災性の確保を目指します。

##### 働く：造船業を中心とした基幹産業の確保と都心周辺部としての商業・業務の雇用の場の充実

臨海部における工業地の維持・保全と都心周辺部としての商業・業務の雇用の場の充実を目指します。

##### 動く：安全で安心な道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、地域拠点や生活地区との公共交通による連携を目指します。

##### 集う：都心周辺部としての都市機能の集積と交流の促進

都心周辺部としての都市機能の集積を行い、利便性の向上を図ります。また、稲佐山公園における交流の促進を目指します。

##### 学ぶ・育む・やすらぐ

##### ：豊かな自然環境と市街地の共存

市街地を取り囲む稲佐山公園などの自然環境の保全や、長崎港の周辺における良好な景観の形成を目指します。

#### 6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	<p>■都心周辺部の利便性を活かした快適な暮らしを確保する</p> <p>①生活利便性の高い都心周辺部では、周辺環境に配慮した都市型居住を促進します。</p> <p>■行政と地域の協働による斜面市街地の環境改善に取り組む</p> <p>①都心部に近接している斜面市街地においては、地域の協力を得ながら居住環境の改善と防災性の向上を図る「斜面市街地再生事業」や「車みち整備事業」、「老朽危険空き家対策事業」などに取り組みます。</p> <p>②斜面地での移動を補助するため、斜面移送機器（リフト）などの斜面交通システムの適切な運用に努めます。</p>

住む	<p><b>■住み良い生活環境を確保する</b></p> <p>①住宅地と工業地の間に整備されている緩衝緑地等を維持・保全し、住環境を保全します。</p> <p>②都市基盤施設が未整備な密集住宅地においては、生活道路や公園等の整備を図り、防災性を考慮した住環境を形成します。</p> <p>③もみじ谷葬祭場について、今後増加する火葬需要に対応し、併せて豊かな施設空間を確保するため、再整備を検討します。</p>
働く	<p><b>■産業基盤を確保する</b></p> <p>①地域経済を支える造船業等、多くの事業所が集積する工業地については、環境対策を促進するなど、周辺の住環境と調和した生産機能の維持・増進に努めます。</p> <p><b>■雇用の場を確保する</b></p> <p>①都心周辺部においては、地震・津波が少ないという優位性を活かした本社機能の移転など、オフィス系企業の立地による良質な雇用の創出を図ります。</p> <p>②地域経済の活性化を図るため、成人病センター跡地の利活用を検討します。</p>
動く	<p><b>■安全で快適な道路を整える</b></p> <p>①土地区画整理事業が進められている長崎駅周辺地区との連携を強化するため、旭大橋の低床化により、道路や歩行者の利便性・快適性の向上を図ります。</p> <p>②(仮)西部環状線(構想)については、整備効果等を見極めながら、長期的に検討します。</p> <p><b>■公共交通の利用を高める</b></p> <p>①地区内の主要な道路では、バスが運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p>
集う	<p><b>■観光に磨きをかける</b></p> <p>①稲佐山ロープウェイの利用を促進するため、周辺の環境整備に努めます。</p> <p>②稲佐山公園においては、長崎を代表する夜景観光の視点場として、稲佐山山頂展望台へのアクセスを向上させるとともに、地区及び長崎市のレクリエーション拠点として適正な維持・整備に努めます。</p> <p>③「長崎さるく」等のまち歩き観光を推進するため、歴史の面影が感じられるまちなみを分かりやすく巡るルートづくりとともに、来訪者にやさしく分かりやすいサインの設置などに取り組みます。</p> <p><b>■都心周辺部としての都市機能を集積する</b></p> <p>①商業・業務地については、周辺環境との調和に配慮した土地利用の高度化により、医療、福祉、商業、業務機能等の誘導に努めます。</p> <p><b>■交流施設を確保する</b></p> <p>①西公民館等のコミュニティ施設については、近隣の既存施設(学校施設、空き施設など)を利用した施設の再配置等により、地域活動の拠点として充実を図ります。</p>
学ぶ・育む・やすらぐ	<p><b>■良好な景観を誘導する</b></p> <p>①景観計画に基づき、海・まち・山で構成される大景観を保全するとともに、長崎港の周辺地区における良好な景観の形成を誘導します。</p> <p><b>■みどり豊かな自然環境を守り育てる</b></p> <p>①稲佐山周辺の市街地に面する市街化調整区域の一部については、宅地等開発に係る「保全区域」が指定されており、みどりと景観の保全を図ります。</p> <p>②歴史性を有する稲佐国際墓地一帯は、潤いを与える貴重な緑地とオープンスペースであるため、みどりの保全と創出を図ります。</p> <p><b>■親しみのある水辺環境を創る</b></p> <p>①良好な水辺空間や景観を創出するため、浦上川の水辺のプロムナードを整備します。</p>



学ぶ  
育む  
やすらぐ

夜景観光の視点場の確保

集う

スポーツ・レクリエーション  
拠点の活用 (稲佐山公園)

学ぶ  
育む  
やすらぐ

浦上川右岸水辺のプロムナード整備

動く

旭大橋の低床化

住む

都市型居住の促進

働く

工業地の機能維持・増進

- 【エリア】
- 都心部
  - 都心周辺部
  - 地域拠点
  - 生活地区
  - 産業エリア
  - 歴史・文化・景観エリア
  - スポーツ・レクリエーションエリア
  - 緑のエリア
- 【土地利用】
- 斜面市街地
  - 住宅地
  - 商業業務地
  - 工業地・港湾
  - 流通業務地
  - 公園・緑地・自然環境の保全地
  - 農地環境の保全地
  - その他
  - 水面
  - 学校教育施設
  - 大規模公共施設
  - その他の施設
  - 公園・風致地区
  - 農林水産資源
  - 地区界
  - 都市計画区域界
- 【道路・交通】
- 高速道路
  - 自動車専用道路等 (計画・構想)
  - 主要幹線道路 (計画・構想)
  - 補助幹線道路 (計画・構想)
  - 新幹線
  - 鉄道
  - 路面電車
  - 航路
- ※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。

# 各地区鳥瞰図



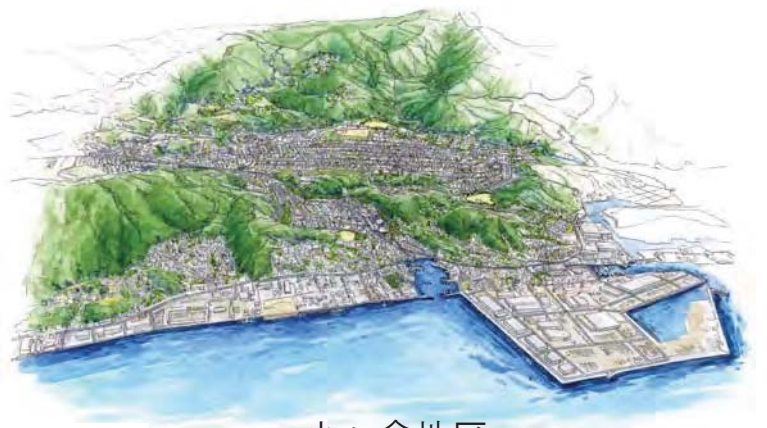
式見地区



福田地区



小栴地区



小ヶ倉地区



茂木地区

1) 地区の概況

- ①本地区は長崎港の東岸に位置し、背後には丘陵が迫り、まとまった平坦地が少ない地形となっています。地区南部には、小ヶ倉ダムを中心とした良好な自然環境を有しています。
- ②元禄2年(1689年)に唐人屋敷が開かれたことに始まり、東山手、南山手一帯が外国人居留地に指定されました。更に、世界遺産の構成資産である旧グラバー住宅、世界遺産候補の構成資産となっている大浦天主堂など、多くの文化遺産が残されており、長崎市観光の拠点となっています。

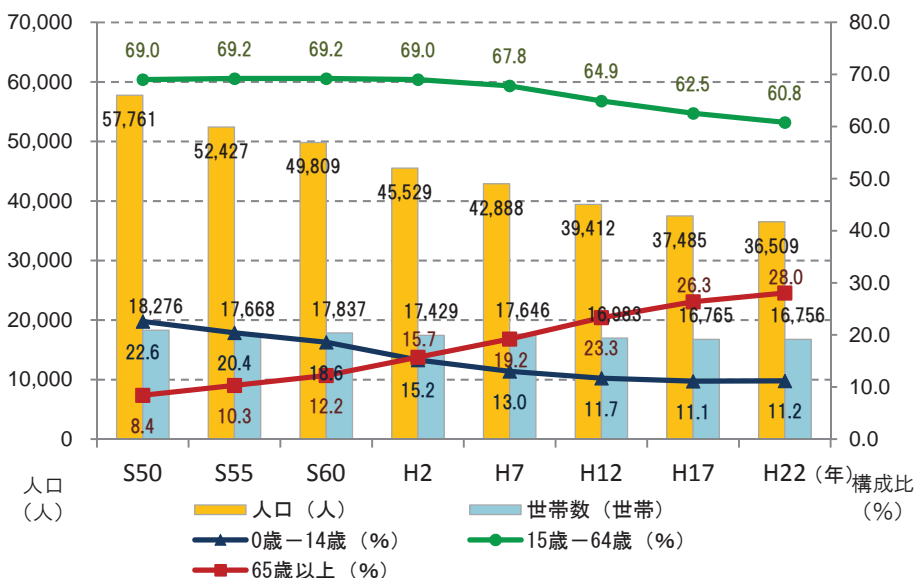
◎位置図



2) 地区の現況と特性

- ①平成26年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の2.7%(1,111.3ha)であり、市街化区域面積は地区の44.3%(492.1ha)となっています。
- ②平成22年国勢調査の地区人口は36,509人で、昭和50年の57,761人と比較して減少しています。世帯数は、昭和50年の18,276世帯から平成22年で16,756世帯と減少しています。1世帯当たり人員は2.2人となっており、市平均の2.4人を下回っております。
- ③65歳以上の人口割合は28.0%で、市平均25.0%を上回っています。
- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成47年には本地区人口は約30,900人まで減少することが予測されています。
- ⑤斜面地や高台に市街地が形成され、良好な眺望空間を有し、また、地区の北側には、オランダ坂やグラバー園、出島、唐人屋敷などの歴史的観光施設や大学・高校などの教育施設が集積しており、長崎市を代表する特色ある市街地景観を形成しています。地区南側においては、背後の高台と傾斜地に住宅を主体とした市街地が形成され、小ヶ倉ダムを中心とした自然豊かな環境を有しています。

◎人口・世帯数の推移



⑥市民アンケート調査の「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、市全体と比較して「働く環境が整ったまちづくり」を答えた人の割合が比較的高くなっています。

### ◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	空き家対策	身近な道路の整備・拡幅	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	環境に配慮した公共施設の整備	自然災害対策
全体	32%	35%	29%	31%	36%	23%	26%
中央南部	34%	31%	28%	32%	34%	24%	28%

### ◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全体	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
中央南部	96人	40人	20人	9人	8人	4人	13人	2人
	100.0%	41.7%	20.8%	9.4%	8.3%	4.2%	13.5%	2.1%

凡例 1位 2位 3位

## 3) 地区の主要課題

### ①安全・安心で快適な住環境の確保

斜面市街地においては、自動車の通行が困難な住宅地が多いことから、空き家の増加や住民の高齢化が進んでおり、防災性を考慮した安全で安心な住環境の確保が必要です。

### ②観光施設の整備と周辺の景観形成

本地区は、グラバー園等の観光施設が多く分布していることから、観光地としての魅力の向上、飲食や物品販売等のサービスの向上、景観形成を図る必要があります。

### ③交通アクセスの向上

都心と周辺地区を結ぶ道路の交通渋滞の解消のため、交通アクセスの向上を図る必要があります。

### ④沿道サービスの機能向上と工業地の生産環境の確保

国道499号や都市計画道路小ヶ倉蛭茶屋線における沿道の利便性を高めるため、沿道サービスの機能充実と造船業等の生産環境の確保が必要です。

### ⑤自然環境の保全

風致地区に貴重なみどりが分布していることから、緑地の保全と臨海部、河川の水辺環境等の自然環境の保全が必要です。

#### 4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

### 国際交流の歴史と文化がもたらす情緒あふれる地区づくり

#### 5) 地区の生活像の目標

##### 住む：都心部・都心周辺部の利便性を活かした住み良い快適な暮らしの確保

都市機能が集積した利便性の良い暮らしの確保を図ります。また、斜面市街地においては、地域との協働による居住環境の向上や防災性の確保を目指します。

##### 働く：都心部・都心周辺部としての商業・業務と観光を中心とした雇用の場の充実

都心部・都心周辺部としての商業・業務と観光地における雇用の場の充実を目指します。

##### 動く：海の玄関口としての広域アクセスの充実と、安全で安心な道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、地域拠点や生活地区との公共交通による連携を目指します。

##### 集う：都心部・都心周辺部としての都市機能の集積と交流の促進

都心部・都心周辺部としての都市機能の集積を行い、利便性の向上を図ります。また、南山手周辺のグラバー園などにおける観光地の魅力の向上を目指します。

##### 学ぶ・育む・やすらぐ

##### ：豊かな自然環境と市街地の共存と歴史的景観の保全、学びの場の充実

市街地を囲む鍋冠山などの自然環境の保全や、東山手・南山手地区などにおける良好な景観の形成を目指します。

#### 6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	<b>■都心部・都心周辺部の利便性を活かした快適な暮らしを確保する</b> ①生活利便性の高い都心部・都心周辺部では、周辺環境に配慮した都市型居住を促進します。 <b>■行政と地域の協働による斜面市街地の環境改善に取り組む</b> ①都心部に近接している斜面市街地においては、地域の協力を得ながら居住環境の改善と防災性の向上を図る「斜面市街地再生事業」や「車みち整備事業」、「老朽危険空き家対策事業」などに取り組みます。



住む	<p>②斜面地での移動を補助するため、斜行エレベーターなどの斜面交通システムの適切な運用に努めます。</p> <p><b>■住み良い生活環境を確保する</b></p> <p>①都市基盤施設が未整備な密集住宅地においては、生活道路や公園等の整備を図り、防災性を考慮した住環境を形成します。</p> <p>②南部下水処理場、小ヶ倉浄水場においては、適正な維持・管理を行います。</p> <p>③長崎みなとメディカルセンター市民病院については、地域医療の拠点として、診療機能の充実と施設の適正な運営を行います。</p>
働く	<p><b>■雇用の場を確保する</b></p> <p>①都心部・都心周辺部においては、地震・津波が少ないという優位性を活かした本社機能の移転など、オフィス系企業の立地による良質な雇用の創出を図ります。</p> <p>②国道499号や都市計画道路小ヶ倉蛭茶屋線の沿道においては、生活サービス機能を充実し、利便性の向上を図るとともに、周辺環境に配慮した商業・業務地を形成します。</p> <p>③地域の持つ観光資源等を活かした交流人口の拡大により、雇用の場の確保を図ります。</p> <p><b>■産業基盤を確保する</b></p> <p>①臨海部南側の造船業を主体とした工業地では、周辺の住宅市街地との環境の調和に配慮しつつ、操業環境の維持・更新を図るとともに、住商工の土地利用の区分の明確化を図ります。</p>
動く	<p><b>■安全で快適な道路を整える</b></p> <p>①放射環状型幹線道路網を形成する都市計画道路長崎外環状線の整備を促進し、都心及び地区内道路の交通渋滞の緩和を図ります。</p> <p><b>■公共交通の利用を高める</b></p> <p>①地区内の主要な道路では、バスや路面電車が運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p> <p>②公共交通空白地域の解消を図るため、乗合タクシーの適正な運行に努めます。</p> <p>③路面電車の石橋電停方面への複線化など運行ルートの見直しを検討します。</p> <p>④松が枝国際観光埠頭は、長崎市の海の玄関口として港湾機能の強化を図ります。</p>
集う	<p><b>■都心部・都心周辺部としての都市機能を集積する</b></p> <p>①商業・業務地については、周辺環境との調和に配慮した土地利用の高度化により、医療、福祉、商業、業務機能等の誘導に努めます。</p> <p><b>■観光に磨きをかける</b></p> <p>①東山手地区では、居留地の歴史を刻む建物や工作物、歴史的景観を感じさせる周辺環境等の文化財的要素を保全・活用するとともに、建物、該当やベンチなどを新しく整備する場合でも、居留地の歴史的環境の保全を図ります。</p> <p>②南山手地区では、グラバー園の整備を推進し、南側の洋館群を保全するとともに、道路や側溝などを保全的に修景し、洋館群を活用して居留地の歴史的環境の保全・育成を図ります。</p> <p>③唐人屋敷跡においては、歴史を活かした地区の魅力向上を図り、特色あるまちづくりを推進します。</p> <p>④世界遺産の構成資産である旧グラバー住宅及び小菅修船場跡については、文化財所有者との協力体制のもと保全と活用を図ります。</p> <p>⑤長崎港については、外航クルーズ客船等の同時接岸、港湾施設の老朽化等に対応するため、港湾管理者（長崎県）とともに、観光船埠頭の2バース化及び緑地（松が枝地区）の整備、老朽化した岸壁等の再配置や利用転換などに取り組みます。</p> <p>⑥夜景観光の魅力向上のため、鍋冠山公園展望台の再整備による視点場の整備を図ります。</p>

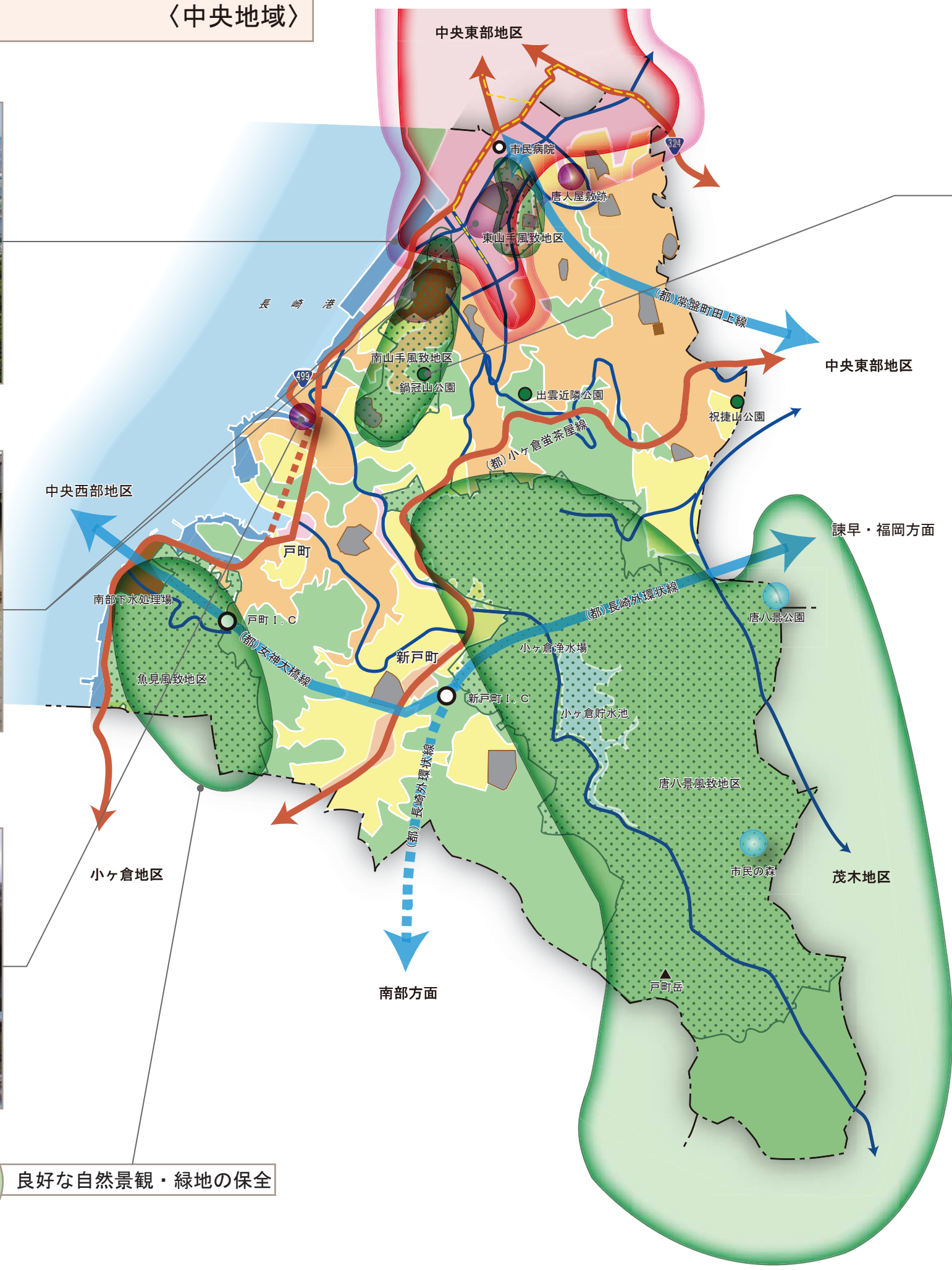
集　　う	<p>⑦レクリエーション拠点として唐八景公園の適正な維持・管理を行います。</p> <p>⑧「長崎さるく」等のまち歩き観光を推進するため、歴史の面影が感じられるまちなみを分かりやすく巡るルートづくりとともに、来訪者にやさしく分かりやすいサインの設置などに取り組みます。</p> <p>■交流施設を確保する</p> <p>①地区公民館等のコミュニティ施設については、地域活動の拠点として、近隣の既存施設（学校施設、空き施設等）を利用した複合化、多機能化や再配置等に取り組みます。</p>
学ぶ・ 育む・ やすらぐ	<p>■文化施設等を整える</p> <p>①館内地区では、蔵の資料館やまちづくり情報センターの活用を推進します。</p> <p>■良好な景観を誘導する</p> <p>①鍋冠山公園などの主な視点場周辺では、建築物等の高さ制限等により、良好な眺望を確保します。</p> <p>②東山手・南山手地区（景観形成重点地区）では、洋館を中心とする歴史的遺産を継承するとともに、それらを活かした景観づくりを進めます。また、歴史的資源や眺望場所をつなぐ、歩いて楽しい道路空間づくりを進めます。</p> <p>③館内・新地地区（景観形成重点地区）では、歴史的な特徴を守り、育て、まとまりある地区景観や、坂の町での「住みあう」人々の暮らしを継承し、地区の特性を活かした景観を形成します。また、中華街・商店街としての賑わいと雰囲気も継承し、その良さを活かした特色あるまちなみを形成します。</p> <p>■みどり豊かな自然環境を守り育てる</p> <p>①鍋冠山とその斜面及び琴平神社一帯の緑地の保全を行います。</p> <p>②市民の森については、森林レクリエーションの場として施設の充実を図り、市民利用を促進するとともに、市街地に隣接する良好な自然環境を有する緑地として維持・保全します。</p> <p>③南山手風致地区や東山手風致地区、唐八景風致地区、魚見風致地区、どんの山等の市街地内の貴重なみどりは、良好な自然環境として保全します。</p> <p>④花のあるまちづくりを推進するため、エリアごとの花をテーマに、通りや公共施設の植栽の統一を図ります。</p> <p>■親しみのある水辺環境を創る</p> <p>①臨海部において、港の景観と親水性を高める水辺空間の整備を図ります。</p> <p>②市民や観光客の潤い空間として、河川が有する多様な生態系や変化に富む美しい景観との調和に配慮しつつ、銅座川プロムナード整備等により水辺空間の形成に努めます。</p>

(3) 中央南部地区 地区別構想図 <中央地域>

集う 松が枝観光船埠頭2パース化

集う 東・南山手観光地の充実

集う 世界遺産構成資産の保全・活用 (小菅修船場跡)



住む 都市型居住の促進

学ぶ育む やすらぐ 夜景観光の視点場の確保

働く 工業地の機能維持

動く 路面電車複線化の検討

【エリア】

- 都心部
- 都心周辺部
- 地域拠点
- 生活地区
- 産業エリア
- 歴史・文化・景観エリア
- スポーツ・レクリエーションエリア
- 緑のエリア

【土地利用】

- 斜面市街地
- 住宅地
- 商業業務地
- 工業地・港湾
- 流通業務地
- 公園・緑地・自然環境の保全地
- 農地環境の保全地
- その他
- 水面
- 学校教育施設
- 大規模公共施設
- その他の施設
- 公園・風致地区
- 農林水産資源
- 地区界
- 都市計画区域界

【道路・交通】

- 高速道路
- 自動車専用道路等 (計画・構想)
- 主要幹線道路 (計画・構想)
- 補助幹線道路 (計画・構想)
- 新幹線
- 鉄道
- 路面電車
- 航路

※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。

学ぶ育む やすらぐ 良好な自然景観・緑地の保全

# 各地区鳥瞰図



高島地区



東長崎地区



日見地区



土井首地区



深堀地区

1) 地区の概況

- ①本地区は都心部の北側に位置し、中央部を南北に流れる浦上川をはさむ2つの斜面地からなっています。
- ②大正9年に市域に編入され、重工業地とこれを取り囲む農村地域でしたが、昭和20年8月の原子爆弾投下により壊滅的被害を受けました。その後、戦災復興計画による新しい市街地の整備が行われ、新興住宅地として発展しました。

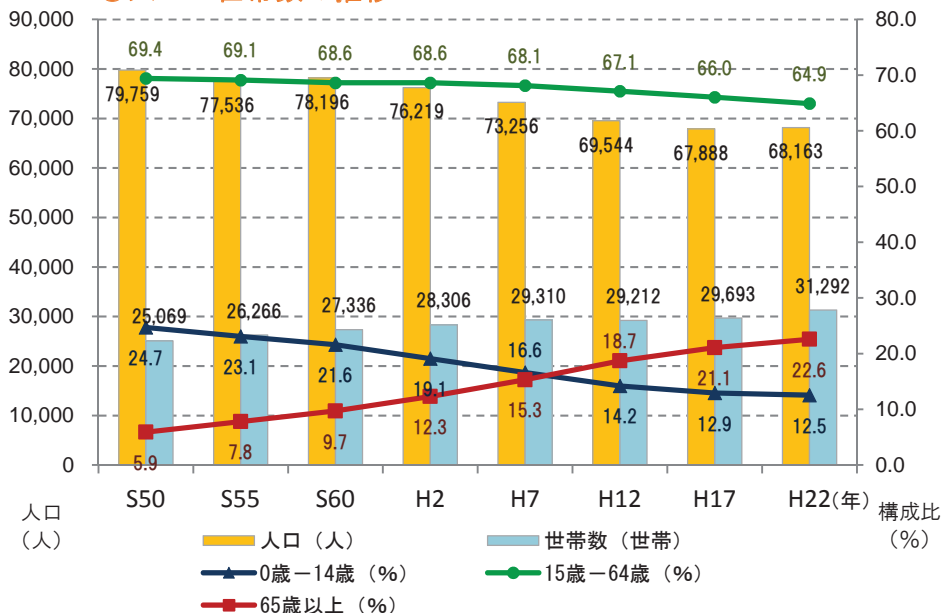
◎位置図



2) 地区の現況と特性

- ①平成26年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の3.1% (1,270.4ha) であり、市街化区域面積は地区の61.7% (783.5ha) となっています。
- ②平成22年国勢調査の地区人口は68,163人で、昭和50年の79,759人と比較して減少しています。世帯数は、昭和50年の25,069世帯から平成22年で31,292世帯と増加しています。1世帯あたり人員は2.2人となっており、市平均の2.4人を下回っております。
- ③65歳以上の人口割合は22.6%と市平均の25.0%を下回っています。
- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成47年には本地区人口は約57,900人まで減少することが予測されています。
- ⑤地区中央部の浦上川左岸には、南側の都心部から連坦する商業・業務地が形成され、その北側には市のシンボリック公園である平和公園が立地しています。これらをはさみ囲むように住居を中心とした市街地が形成されており、地区東側の丘陵地は、旧来からの斜面住宅地、西側の丘陵地には計画的に整備された住宅団地があります。

◎人口・世帯数の推移



⑥地区北西側の岩屋山、東側の金比羅山、南西側の稲佐山の斜面により形成される緑地は、良好な自然環境が保全されています。

⑦市民アンケート調査における項目別の必要な取り組み意向は以下の表のとおりで、市全体と比較して、住宅の「空き家対策」と答えた人の割合が高くなっています。また、「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、市全体と比較して「安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり」の回答割合が比較的高くなっています。

### ◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	空き家対策	身近な道路の整備・拡幅	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	環境に配慮した公共施設の整備	自然災害対策
全体	34%	31%	28%	32%	34%	24%	28%
中央北部	32%	37%	28%	35%	36%	22%	25%

### ◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全体	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
中央北部	173人	89人	26人	11人	12人	13人	20人	2人
	100.0%	51.4%	15.0%	6.4%	6.9%	7.5%	11.6%	1.2%

凡例 1位 2位 3位

## 3) 地区の主要課題

### ①防災性を考慮した斜面市街地の環境改善

斜面市街地には、自動車の通行が困難な住宅地が多く、空き家の増加や住民の高齢化が進んでいることから、防災性を考慮した環境改善が必要です。

### ②渋滞を解消する幹線道路の整備

都心部と市北部の隣接市町を結ぶ道路の渋滞を解消するための、幹線道路の整備が求められています。

### ③市の中心部と結ばれる幹線道路沿道における利便性の向上

生活利便性を向上させるために、市の中心部と結ばれる国道206号沿道における商業・業務施設の誘導が必要です。

### ④商業・業務地における機能充実・JR浦上駅周辺の機能強化

地元商店街における利便性を高めるために公共交通の利用環境の更なる向上と、JR浦上駅周辺での計画的な土地利用の転換・高度化を図る必要があります。

### ⑤平和公園地区等の良好な景観形成

平和公園等周辺の歴史を有する景観形成重点地区における良好な景観の形成が求められています。

#### 4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

### 国際平和文化都市の拠点として、交流と活力のある地区づくり

#### 5) 地区の生活像の目標

##### 住む：都心周辺部の利便性を活かした住み良い快適な暮らしの確保

都市機能が集積した利便性の良い暮らしの確保を図ります。また、斜面市街地においては、地域との協働による居住環境の向上や防災性の確保を目指します。

##### 働く：都心周辺部としての商業・業務を中心とした雇用の場の充実

都心周辺部としての商業・業務の雇用の場の充実を目指します。

##### 動く：広域アクセスの充実と、安全で安心な道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、地域拠点や生活地区との公共交通による連携を目指します。

##### 集う：都心周辺部としての都市機能の集積と交流の促進

都心周辺部としての都市機能の集積を行い、利便性の向上を図ります。また、被爆の実相を伝えていくための施設の充実を目指します。

##### 学ぶ・育む・やすらぐ

##### ：豊かな自然環境と市街地の共存、学びの場の充実

市街地を囲む岩屋山などの自然環境の保全や、平和公園周辺の世界に誇れる良好な景観の形成を目指します。

#### 6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	<ul style="list-style-type: none"><li>■都心周辺部の利便性を活かした快適な暮らしを確保する<ul style="list-style-type: none"><li>①生活利便性の高い都心周辺部では、周辺環境に配慮した都市型居住を促進します。</li></ul></li><li>■行政と地域の協働による斜面市街地の環境を改善する取り組み<ul style="list-style-type: none"><li>①都心部に近接している斜面市街地においては、地域の協力を得ながら居住環境の改善と防災性の向上を図る「斜面市街地再生事業」や「車みち整備事業」、「老朽危険空き家対策事業」などに取り組みます。</li><li>②斜面地での移動を補助するため、斜面移送機器（リフト）などの斜面交通システムの適切な運用に努めます。</li></ul></li></ul>

<p style="text-align: center;"><b>住む</b></p>	<p><b>■良好な住環境を維持・保全する</b></p> <p>①城山台、小江原など計画的に整備された住宅市街地においては、地区計画等を活用し、良好な住環境の維持・保全を図ります。</p> <p><b>■住み良い生活環境を確保する</b></p> <p>①都市基盤施設が未整備な密集住宅地においては、生活道路や公園等の整備を図り、防災性を考慮した住環境を形成します。</p> <p>②中部茂里町第2雨水排水ポンプ場の適正な運転管理を行い、浸水被害の防除に努めます。</p>
<p style="text-align: center;"><b>働く</b></p>	<p><b>■雇用の場を確保する</b></p> <p>①都心周辺部においては、地震・津波が少ないという優位性を活かした本社機能の移転など、オフィス系企業の立地による良質な雇用の創出を図ります。</p> <p>②国道206号沿線の商業地において、市街地の整備改善と商業活性化策などにより、活性化を図ります。</p> <p>③中部下水処理場や隣接する工場用地は、地域経済の活性化を図るため、跡地活用について検討します。</p>
<p style="text-align: center;"><b>動く</b></p>	<p><b>■安全で快適な道路を整える</b></p> <p>①地域高規格道路長崎南北幹線道路の整備を促進し、都心部と市北部、時津町、西海市、佐世保市との連絡を強化するとともに、国道206号の交通渋滞の緩和、周辺生活道路網の環境改善や既成市街地への居住の推進を図ります。</p> <p>②市道江平浜平線、市道三原浜平線など生活道路網の整備を推進し、良好な道路ネットワークを形成します。</p> <p>③（仮）西山浦上線（構想）、（仮）西部環状線（構想）については、整備効果等を見極めながら、長期的に検討します。</p> <p>④JR長崎本線の連続立体交差事業による踏切の解消により、交通渋滞の緩和を図ります。</p> <p><b>■公共交通の利用を高める</b></p> <p>①地区内ではJRが運行され、また、主要な道路では、バス、路面電車が運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p> <p>②公共交通空白地域の解消を図るため、乗合タクシーの適正な運行に努めます。</p>
<p style="text-align: center;"><b>集う</b></p>	<p><b>■都心周辺部としての都市機能を集積する</b></p> <p>①JR浦上駅周辺においては、交通結節性を活かした文化交流、商業・業務といった総合的な商業地の形成を図ります。</p> <p>②JR浦上駅周辺において、JR長崎本線の連続立体交差事業を促進し、鉄道により分断されている東西市街地の一体化を図るとともに、交通拠点としての利便性、快適性などの向上を図ります。</p> <p>③本原町、城栄町などの商業地においては、地元住民への日常生活サービスを充実し、利便性の向上を図ります。</p> <p><b>■観光に磨きをかける</b></p> <p>①「長崎さるく」等のまち歩き観光を推進するため、歴史の面影が感じられるまちなみを分かりやすく巡るルートづくりとともに、来訪者にやさしく分かりやすいサインの設置などに取り組みます。</p> <p><b>■平和交流を推進する</b></p> <p>①ピース・ツーリズムを支えるさるくガイドや平和案内人などの人材の育成を図ります。</p> <p>②平和公園、原爆資料館、国立追悼平和祈念館、永井記念館、被爆遺構などの適正な維持・管理を行います。</p> <p><b>■交流施設を確保する</b></p> <p>①平和公園西地区においては、県営野球場や市民総合プール、ラグビー・サッカー場、</p>



<p>集 う</p>	<p>駐車場などが整備されており、適正な維持・管理を行います。</p> <p>②芸術文化の振興や豊かな市民生活の向上などに寄与する長崎ブリックホールは、今後も適切な維持・管理を行います。</p> <p>③地区公民館等のコミュニティ施設については、近隣の既存施設（学校施設、空き施設など）を利用した施設の再配置等により、地域活動の拠点として充実を図ります。</p>
<p>学ぶ・育む・やすらぐ</p>	<p><b>■平和教育を推進する</b></p> <p>①被爆の実相が効果的に伝わるよう、被爆資料や被爆遺構の風化を防止し後世に伝えるため、適切な保存に努めます。</p> <p><b>■良好な景観を誘導する</b></p> <p>①平和公園地区（景観形成重点地区）では、被爆遺構、平和を祈念する施設を中心に、被爆の実相を後世に伝え、恒久平和を訴えていく場所として、世界に誇れるまちづくりを図ります。</p> <p>②潤いと親しみのあるまちづくりを進めるため、地域内を一体的に回遊できるように、分かりやすいまちかど、優しいまちすじを創出します。</p> <p>③住宅地の中にも観光地的要素が混在するため、住民にとっては暮らしやすく、来訪者にとっても快適な印象を与えるまちづくりを推進します。</p> <p><b>■みどり豊かな自然環境を守り育てる</b></p> <p>①地区北西側の岩屋山や東部の金比羅公園、南部の稲佐山公園の緑地などは、市街地に隣接する良好な自然環境として維持・保全します。</p> <p>②市街地内の緑地は、住民にうるおいを与える自然環境として保全を図るとともに、市街地内のみどりを創出します。</p> <p>③平和公園のみどりは、市街地内の良好な緑地として維持・保全します。</p> <p>④稲佐山公園周辺及び金比羅公園周辺における宅地等開発に係る「保全区域」のみどりと景観を保全します。</p> <p><b>■親しみのある水辺環境を創る</b></p> <p>①浦上川は市民に身近な水辺として、水質の向上を図るとともに親水空間としての整備を図ります。</p>

(4) 中央北部地区 地区別構想図 <中央地域>

学ぶ育む やすらぐ 良好な自然景観・緑地の保全

住む 都市型居住の促進

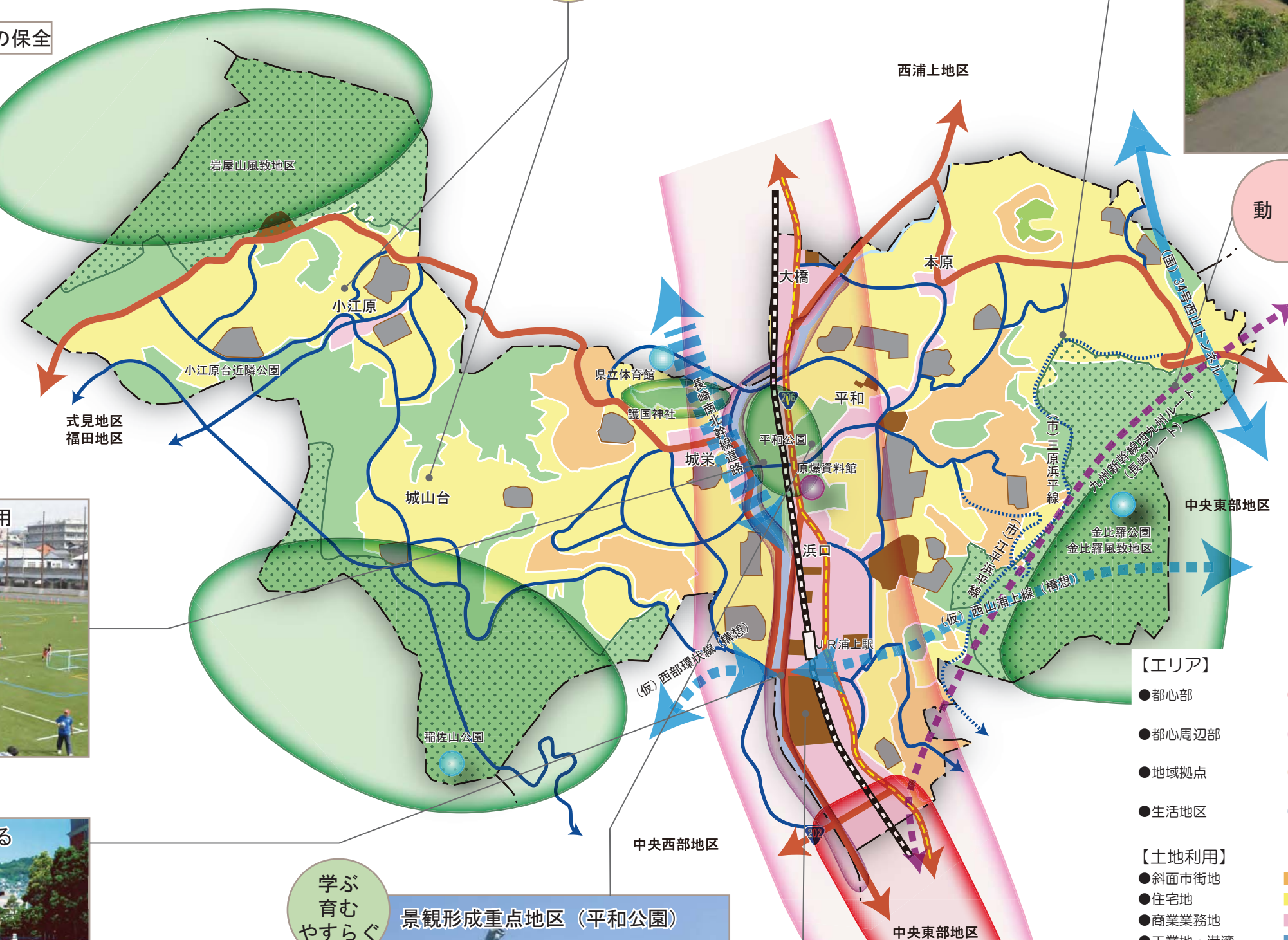
集う 平和公園(西地区)の活用

動く 連続立体交差事業による東西分断の解消  
完成イメージ

住む 良好な住宅市街地の維持・保全

動く 補助幹線道路の整備  
(市) 江平浜平線 (市) 三原浜平線

動く 九州新幹線 西九州ルート整備



- 【エリア】
- 都心部
  - 都心周辺部
  - 地域拠点
  - 生活地区
  - 産業エリア
  - 歴史・文化・景観エリア
  - スポーツ・レクリエーションエリア
  - 緑のエリア
- 【土地利用】
- 斜面市街地
  - 住宅地
  - 商業業務地
  - 工業地・港湾
  - 流通業務地
  - 公園・緑地・自然環境の保全地
  - 農地環境の保全地
  - その他
  - 水面
  - 学校教育施設
  - 大規模公共施設
  - その他の施設
  - 公園・風致地区
  - 農林水産資源
  - 地区界
  - 都市計画区域界
- 【道路・交通】
- 高速道路
  - 自動車専用道路等 (計画・構想)
  - 主要幹線道路 (計画・構想)
  - 補助幹線道路 (計画・構想)
  - 新幹線
  - 鉄道
  - 路面電車
  - 航路
- ※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。

学ぶ育む やすらぐ 景観形成重点地区(平和公園)

働く 中部下水処理場や隣接工場跡地の活用検討

### 1) 地区の概況

- ①本地区は市の西部にあり、東は岩屋山、北は矢筈岳などの山林に囲まれ、西は角力灘に面しています。平坦地は、式見川沿いに見られるのみで、地区の大部分は山林となっています。
- ②式見漁港をとり囲むように市街地が形成され、昭和37年に市域に編入されました。昭和54年にながさき式見ハイツ（現 長崎あぐりの丘高原ホテル）が開館し、平成10年に長崎市いこいの里（あぐりの丘）がオープンしました。

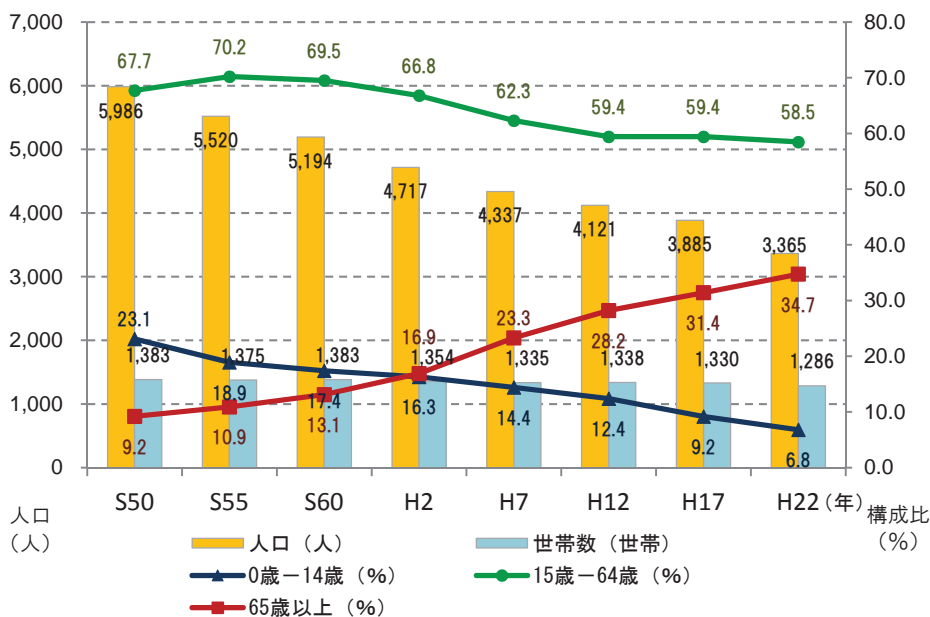
◎位置図



### 2) 地区の現況と特性

- ①平成26年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の2.4%（964.4ha）であり、市街化区域面積は地区の6.1%（58.7ha）となっています。
- ②平成22年国勢調査の地区人口は3,365人で、昭和50年の5,986人と比較して減少しています。世帯数は、昭和50年の1,383世帯から平成22年で1,286世帯と減少しています。1世帯当たり人員は2.6人となっており、市平均の2.4人を上回っております。
- ③65歳以上の人口割合は34.7%と市平均25.0%を大きく上回っています。
- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成47年には本地区人口は約2,000人まで減少することが予測されています。
- ⑤沿岸の漁港を中心として市街地が形成されており、山間部には小規模の集落が点在しています。

◎人口・世帯数の推移



⑥市民アンケート調査における項目別の必要な取り組み意向は以下の表のとおりで、市全体と比較して、住宅地の「斜面住宅地などの空き家対策」、道路交通の「身近な道路の整備・拡幅」と答えた人の割合が高くなっています。また、「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、市全体と比較して「安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり」、「誰もが移動しやすいまちづくり」の回答割合が比較的高くなっています。

### ◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	斜面住宅地などの空き家対策	身近な道路の整備・拡幅	子どもが安心して遊べる公園	地域コミュニティの中心となる公民館	環境に配慮した公共施設の整備	自然災害対策
全体	34%	31%	28%	32%	17%	24%	28%
式見	32%	41%	38%	26%	30%	33%	33%

### ◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全体	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
式見	19人	10人	2人	4人	2人	0人	1人	0人
	100.0%	52.6%	10.5%	21.1%	10.5%	0.0%	5.3%	0.0%

凡例 1位 2位 3位

## 3) 地区の主要課題

### ①防災性を考慮した住環境整備

漁港周辺や丘陵地に接して市街地が形成されていることから、道路交通の安全性や土砂災害等から安全な住環境整備、空き家対策が求められています。

### ②周辺地区とのアクセスの強化、公共交通の充実

滑石地区方面との連絡を向上させるため、市道相川町四杖町1号線等のアクセスを強化する必要があります。また、地区内を走るバス等の公共交通の充実が求められています。

### ③式見漁港の水産業の機能充実

働く環境を整えるとともに地域の水産業振興のため、式見漁港の漁港機能や水産関連機能の充実が必要です。

### ④生活サービス機能の充実

式見支所周辺は地区の中心として位置付けられることから、日常生活サービス施設の確保が必要です。

### ⑤自然環境の保全、漁港景観の保全

式見ダム周辺の良好な自然環境と式見漁港の貴重な漁港景観の保全が必要です。

#### 4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

豊かな自然との調和や交流のある地区づくり

#### 5) 地区の生活像の目標

##### 住 む：自然環境と調和した住み良い快適な暮らしの確保

豊かな自然環境と調和した、良好な住環境の確保を目指します。

##### 働 く：農業・水産業を中心とした地域産業の確保

地域産業経営・生産基盤の強化を目指します。

##### 動 く：都心部・都心周辺部や周辺の生活地区と繋がる道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、都心部・都心周辺部や周辺の生活地区との公共交通による連携を図ります。

##### 集 う：いこいの里を中心とした交流の促進と地域コミュニティの中心となる日常生活機能の確保

長崎市いこいの里（あぐりの丘）の活用や、支所周辺における日常生活機能の確保を目指します。

##### 学ぶ・育む・やすらぐ

##### ：豊かな自然環境の保全

式見ダム周辺の良好な自然環境の保全を目指します。

## 6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	<p>■ <b>住み良い生活環境を確保する</b></p> <p>①既成市街地においては、生活道路や公園などの適切な維持・管理により、良好な住環境の維持・保全を図ります。</p>
働く	<p>■ <b>地域産業を確保する</b></p> <p>①式見漁港の埋立地については、漁港機能の拡充を目指し、水産関連施設などの充実を図ります。</p> <p>②農林水産業の経営・生産基盤の強化を図ります。</p>
動く	<p>■ <b>安全で快適な道路を整える</b></p> <p>①長崎市いこいの里（あぐりの丘）や滑石地区へのアクセス強化を図るとともに、生活道路網の拡充として市道相川町四杖町1号線の整備を推進します。</p> <p>■ <b>公共交通の利用を高める</b></p> <p>①地区内の主要な道路では、バスが運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p>
集う	<p>■ <b>地域コミュニティの中心となる日常生活機能を維持する</b></p> <p>①地域コミュニティの中心である式見支所周辺の商業・業務地においては、日常的な生活サービスを維持し、不足する生活サービスについては都心部と連携することで補完を図ります。</p> <p>■ <b>交流施設を確保する</b></p> <p>①長崎市いこいの里（あぐりの丘）については、レクリエーション拠点として適正な維持・管理、活用を図ります。</p> <p>②遊休公的財産である式見高校跡地の活用を検討します。</p> <p>③地区公民館等のコミュニティ施設については、地域活動の拠点として、近隣の既存施設（学校施設、空き施設等）を利用した複合化、多機能化や再配置等に取り組みます。</p>
学ぶ・育む・やすらぐ	<p>■ <b>良好な景観を誘導する</b></p> <p>①角力灘に迫り出した山林のみどりや式見ダム周辺の緑地などの良好な自然景観を保全します。</p> <p>②式見地区は、漁港を中心とした市街地を形成しており、漁港の歴史性・地域性を有し、地区の個性を創出していることから、この漁港景観を保全します。</p> <p>③神楽島など海と調和した良好な自然景観を保全します。</p> <p>■ <b>みどり豊かな自然環境を守り育てる</b></p> <p>①式見ダム周辺の緑地については、水とみどりが一体となった良好な自然環境として保全します。</p>

(5) 式見地区 地区別構想図 <中央地域>



集う レクリエーション拠点の活用  
いこいの里

学ぶ育む やすらく  
良好な自然海岸・緑地の保全

動く 補助幹線道路の整備  
(市)相川町四杖町1号線

集う 式見高校跡地活用の検討



働く 水産業経営・生産基盤の強化

集う 日常生活機能の維持(都心部連携)

- |         |                    |         |
|---------|--------------------|---------|
| ● 都心部   | ● 産業エリア            | ● 緑のエリア |
| ● 都心周辺部 | ● 歴史・文化・景観エリア      | ● 緑のエリア |
| ● 地域拠点  | ● スポーツ・レクリエーションエリア | ● 緑のエリア |
| ● 生活地区  | ● 緑のエリア            | ● 緑のエリア |
- 
- |         |                    |         |
|---------|--------------------|---------|
| 【エリア】   | ● 産業エリア            | ● 緑のエリア |
| ● 都心部   | ● 歴史・文化・景観エリア      | ● 緑のエリア |
| ● 都心周辺部 | ● スポーツ・レクリエーションエリア | ● 緑のエリア |
| ● 地域拠点  | ● 緑のエリア            | ● 緑のエリア |
| ● 生活地区  | ● 緑のエリア            | ● 緑のエリア |
- 
- |                  |                   |        |
|------------------|-------------------|--------|
| 【土地利用】           | ● 高速道路            | ● 新幹線  |
| ● 斜面市街地          | ● 自動車専用道路等(計画・構想) | ● 鉄道   |
| ● 住宅地            | ● 主要幹線道路(計画・構想)   | ● 路面電車 |
| ● 商業業務地          | ● 補助幹線道路(計画・構想)   | ● 航路   |
| ● 工業地・港湾         | ● 公園・緑地・自然環境の保全地  |        |
| ● 流通業務地          | ● 農地環境の保全地        |        |
| ● 公園・緑地・自然環境の保全地 | ● その他             |        |
| ● 農地環境の保全地       | ● 水面              |        |
| ● その他            | ● 学校教育施設          |        |
| ● 水面             | ● 大規模公共施設         |        |
| ● 学校教育施設         | ● その他の施設          |        |
| ● 大規模公共施設        | ● 公園・風致地区         |        |
| ● その他の施設         | ● 農林水産資源          |        |
| ● 公園・風致地区        | ● 地区界             |        |
| ● 農林水産資源         | ● 都市計画区域界         |        |
| ● 地区界            |                   |        |
| ● 都市計画区域界        |                   |        |
- 
- |                   |                   |        |
|-------------------|-------------------|--------|
| 【道路・交通】           | ● 高速道路            | ● 新幹線  |
| ● 高速道路            | ● 自動車専用道路等(計画・構想) | ● 鉄道   |
| ● 自動車専用道路等(計画・構想) | ● 主要幹線道路(計画・構想)   | ● 路面電車 |
| ● 主要幹線道路(計画・構想)   | ● 補助幹線道路(計画・構想)   | ● 航路   |
| ● 補助幹線道路(計画・構想)   | ● 新幹線             |        |
| ● 新幹線             | ● 鉄道              |        |
| ● 鉄道              | ● 路面電車            |        |
| ● 路面電車            | ● 航路              |        |
| ● 航路              |                   |        |
- ※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。

### 1) 地区の概況

- ①本地区は市の西部に位置し、東は岩屋山、稲佐山、西は角力灘に面しています。また、本地区は、海岸線まで山が迫っており、市街地は沿岸部や河川沿いに形成されています。
- ②永禄 8 年（1565 年）から長崎開港までの約 6 年間、ポルトガル船が入港して貿易港となったこともありますが、江戸期は大村藩に所属し、明治維新に至りました。
- ③昭和 30 年に市域に編入され、昭和 57 年には、小江の工業団地が完成しました。

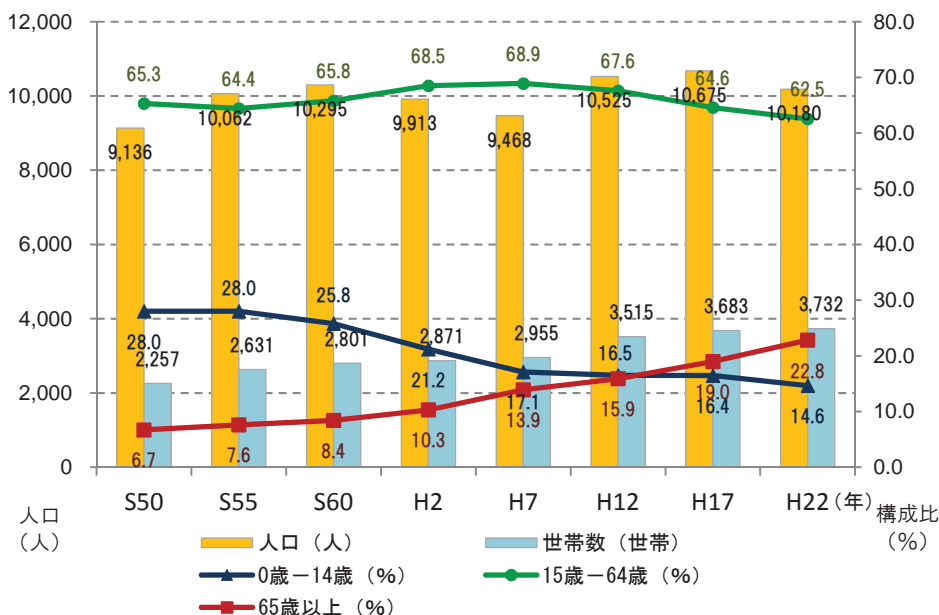
◎位置図



### 2) 地区の現況と特性

- ①平成 26 年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の 4.5%（1,834.1ha）であり、市街化区域面積は地区の 10.1%（185.7ha）となっています。
- ②平成 22 年国勢調査の地区人口は 10,180 人で、昭和 50 年の 9,136 人と比較して増加しています。世帯数は、昭和 50 年の 2,257 世帯から平成 22 年で 3,732 世帯と増加しています。1 世帯当たり人員は 2.7 人となっており、市平均の 2.4 人を上回っています。
- ③65 歳以上の人口割合は 22.8%と市平均の 25.0%を下回っています。
- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成 47 年には本地区人口は約 6,200 人まで減少することが予測されています。
- ⑤国道 202 号の沿道や漁港周辺に市街地が形成されており、臨海部には工業団地が立地しています。長崎市総合運動公園、かきどまり白浜や長崎サンセットマリーナがあり、多様なスポーツ・レクリエーション拠点を形成しています。

◎人口・世帯数の推移





⑥市民アンケート調査における項目別の必要な取り組み意向は以下の表のとおりで、市全体と比較して、道路交通の「身近な道路の整備・拡幅」、公共施設の「地域コミュニティの中心となる公民館」と答えた人の割合が高くなっています。また、「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、「安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり」「誰もが移動しやすいまちづくり」の回答割合が比較的高くなっています。

### ◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	リフォームの指導や支援	身近な道路の整備・拡幅	子どもが安心して遊べる公園	地域コミュニティの中心となる公民館	環境に配慮した公共施設の整備	自然災害対策
全市	34%	32%	28%	32%	17%	24%	28%
福田	27%	28%	41%	30%	33%	23%	28%

### ◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全市	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
福田	21人	11人	3人	5人	1人	0人	1人	0人
	100.0%	52.4%	14.3%	23.8%	4.8%	0.0%	4.8%	0.0%

凡例 1位 2位 3位

## 3) 地区の主要課題

### ①防災性を考慮した住環境整備

丘陵地沿いに市街地が形成されているため、防災性を考慮した住宅地の整備が必要です。

### ②都心部・都心周辺部・地域拠点との連携・交流を促進する広域交通体系の整備、国道202号沿道の歩行者の安全性の確保

都心部・都心周辺部・地域拠点に近接する条件を活かし、地域間の連携を促進するために、広域交通体系の整備が求められています。また、国道202号の歩行者の安全性の確保が必要です。

### ③未利用地の活用、周辺環境との調和、耕作放棄地の改善

小江工業団地の土地利用の推進と、快適な環境を確保するため採石場における周辺環境に配慮した環境保全が求められています。また、耕作放棄地も改善する必要があります。

### ④商業・業務地の機能の充実

地区の利便性を高めるため、国道202号沿道などにおける商業・業務地の日常生活サービス機能の確保が求められています。

### ⑤レクリエーション機能の充実

優れた自然環境を活かし地域の活性化を図るため、長崎市総合運動公園、かきどまり白浜等のスポーツ・レクリエーション機能の維持・充実が求められています。

### ⑥自然環境や景観の維持・保全

稲佐山公園、岩屋山風致地区の良好な自然環境・景観を有することから、その保全、長崎サンセットマリナー等の海岸景観の保全が求められています。

#### 4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

スポーツ・海洋レクリエーションと工業団地、住環境が調和した地区づくり

#### 5) 地区の生活像の目標

##### 住む：自然環境や工業と調和した住み良い快適な暮らしの確保

住宅地と工業地の間に整備されている緩衝緑地の維持・保全により住環境の保全を目指します。

##### 働く：工業を中心とした産業基盤の確保

小江工業団地の利用促進による地区の活性化を目指します。

##### 動く：都心部・都心周辺部や周辺の生活地区と繋がる道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、都心部・都心周辺部や周辺の生活地区との公共交通による連携を図ります。

##### 集う：総合運動公園を中心とした交流の促進と地域コミュニティの中心となる日常生活機能の確保

長崎市総合運動公園の活用による交流の促進や、支所周辺・国道 202 号沿道における日常生活機能の確保を目指します。

##### 学ぶ・育む・やすらぐ

##### ：豊かな自然環境と工業地の調和

小江などの工業地は、周辺の自然環境との調和に配慮し、稲佐山などの良好な自然環境は、その保全を目指します。

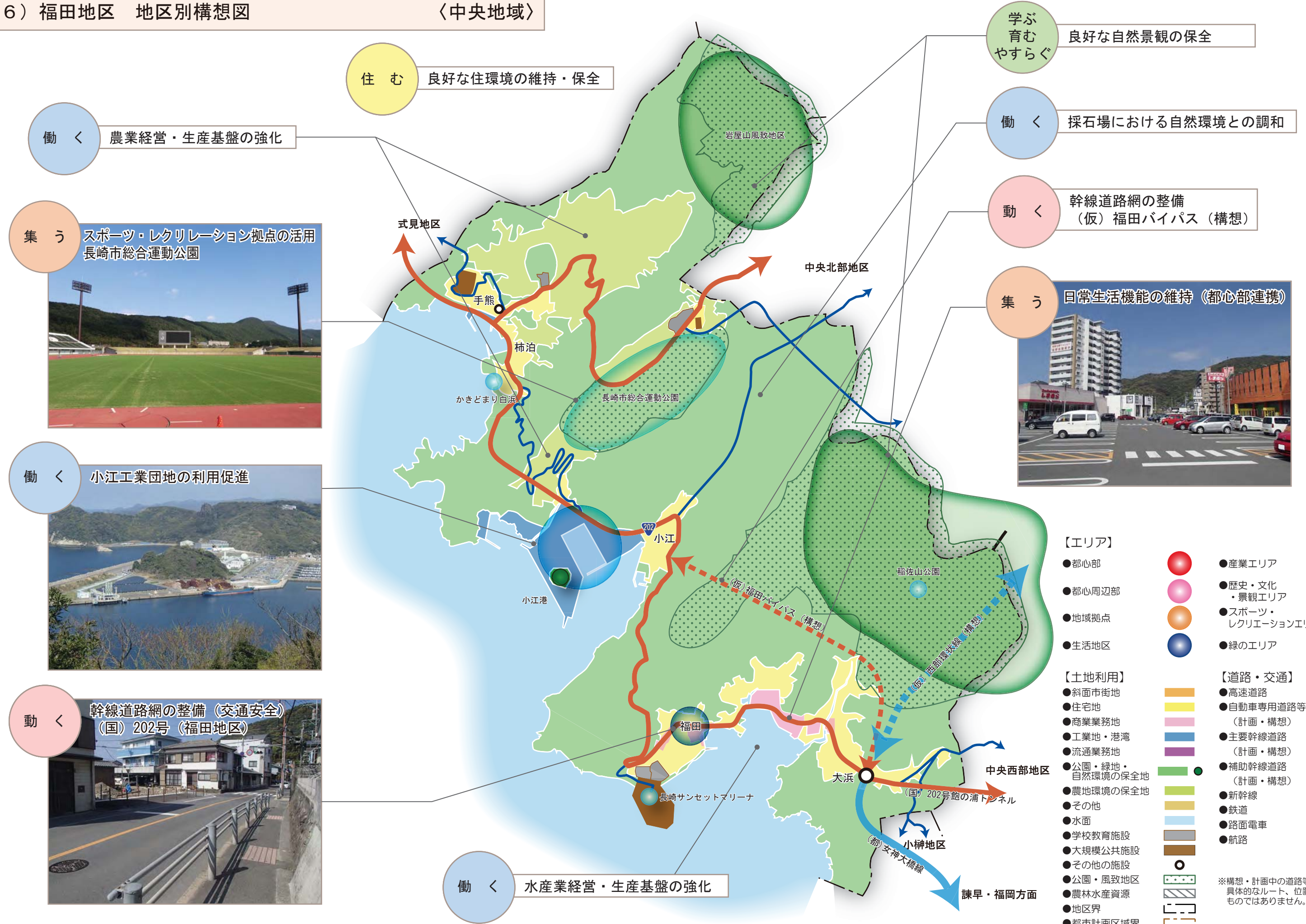
#### 6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	<p>■良好な住環境を維持・保全する</p> <p>①大浜地区の高層住宅地においては、良好な住環境の維持・保全を図ります。</p> <p>■住み良い生活環境を確保する</p> <p>①住宅地と工業地の間に整備されている緩衝緑地等を維持・保全し、住環境を保全します。</p> <p>②既成市街地においては、生活道路や公園などの適切な維持・管理により、良好な住環境の維持・保全を図ります。</p> <p>③手熊浄水場については、適正な維持・管理を行います。</p>

働 く	<p>■産業基盤を確保する</p> <p>①小江工業団地の土地利用については、周辺環境に配慮するとともに、未利用地の利用を促進し、地区の活性化を図ります。</p> <p>②小江地区に位置する採石場においては、周辺環境に配慮した環境保全対策を図ります。</p> <p>■地域産業を確保する</p> <p>①農林水産業の経営・生産基盤の強化を図ります。</p>
動 く	<p>■安全で快適な道路を整える</p> <p>①国道 202 号は、歩行者の安全を確保するため歩道の整備を促進するとともに、(仮)福田バイパス(構想)の整備を促進します。</p> <p>②(仮)西部環状線(構想)については、整備効果等を見極めながら、長期的に検討します。</p> <p>■公共交通の利用を高める</p> <p>①地区内の主要な道路では、バスが運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p>
集 う	<p>■地域コミュニティの中心となる日常生活機能を維持する</p> <p>①地域コミュニティの中心である福田支所や大浜、小浦の国道 202 号沿道の商業・業務地においては、日常的な生活サービスを維持し、不足する生活サービスについては都心部と連携することで補完を図ります。</p> <p>■交流施設を確保する</p> <p>①長崎市総合運動公園は、県南地区のスポーツ拠点として交流の活性化を図るとともに、第 2 期の整備を推進します。</p> <p>②かきどまり白浜については、地区及び長崎市のスポーツ・レクリエーション拠点として維持・管理を図ります。</p> <p>③地区公民館等のコミュニティ施設については、地域活動の拠点として、近隣の既存施設(学校施設、空き施設等)を利用した複合化、多機能化や再配置等に取り組みます。</p>
学ぶ・育む・やすらぐ	<p>■良好な景観を誘導する</p> <p>①小江工業団地内の野島や稲佐山、岩屋山風致地区などの緑地は、良好な自然景観として維持・保全します。</p> <p>■みどり豊かな自然環境を守り育てる</p> <p>①地区南東部の稲佐山公園、北部に岩屋山風致地区が指定されており、良好な自然環境を有する緑地として維持・保全します。</p> <p>■親しみのある水辺環境を創る</p> <p>①長崎サンセットマリーナの景観は、地区を特徴づける良好な親水景観として維持・保全します。</p>

(6) 福田地区 地区別構想図 <中央地域>



働 く 農業経営・生産基盤の強化

住 む 良好な住環境の維持・保全

学ぶ  
育む  
やすらぐ 良好な自然景観の保全

働 く 採石場における自然環境との調和

動 く 幹線道路網の整備  
(仮)福田バイパス (構想)

集 う スポーツ・レクリエーション拠点の活用  
長崎市総合運動公園



集 う 日常生活機能の維持 (都心部連携)



働 く 小江工業団地の利用促進



動 く 幹線道路網の整備 (交通安全)  
(国)202号 (福田地区)



働 く 水産業経営・生産基盤の強化

- 【エリア】
- 都心部
  - 都心周辺部
  - 地域拠点
  - 生活地区
  - 産業エリア
  - 歴史・文化・景観エリア
  - スポーツ・レクリエーションエリア
  - 緑のエリア
- 【土地利用】
- 斜面市街地
  - 住宅地
  - 商業業務地
  - 工業地・港湾
  - 流通業務地
  - 公園・緑地・自然環境の保全地
  - 農地環境の保全地
  - その他
  - 水面
  - 学校教育施設
  - 大規模公共施設
  - その他の施設
  - 公園・風致地区
  - 農林水産資源
  - 地区界
  - 都市計画区域界
- 【道路・交通】
- 高速道路
  - 自動車専用道路等 (計画・構想)
  - 主要幹線道路 (計画・構想)
  - 補助幹線道路 (計画・構想)
  - 新幹線
  - 鉄道
  - 路面電車
  - 航路
- ※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。

### 1) 地区の概況

- ①本地区は市の西部に位置し、長崎港の入口部分に面しています。埋立地を除き地区の大部分が斜面地で構成されています。
- ②江戸時代は佐賀藩深堀領に属していました。一方、小瀬戸町、木鉢町は、別名小瀬戸浦、木鉢浦とも呼ばれて幕府直轄領でした。瀬戸をはさんだ離れ島であった神ノ島・小瀬戸の間は、第二次世界大戦中から埋立てが始められ、昭和 24 年頃陸続きとなりました。
- ③三町とも長崎港の入口にあったことから、番所や台場が置かれて国防上重要な位置を占めていました。
- ④昭和 13 年に市域に編入されました。その後、昭和 56 年に工業団地がつくられました。

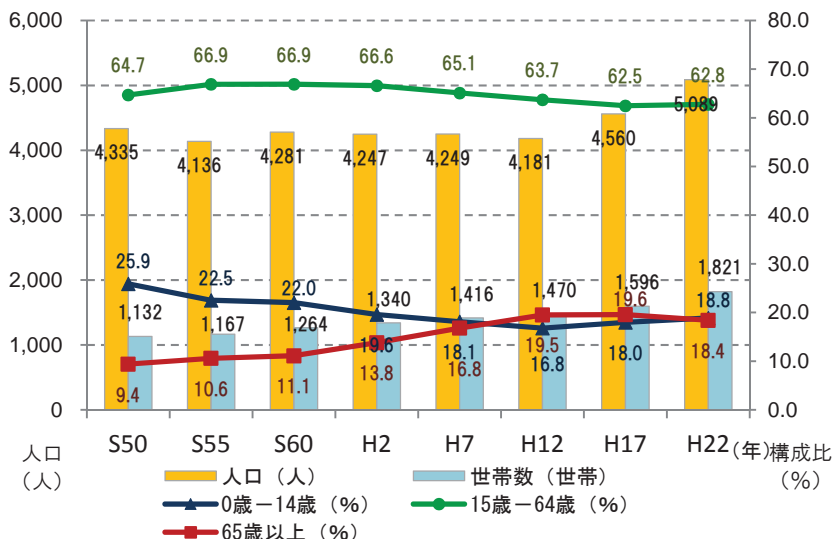
◎位置図



### 2) 地区の現況と特性

- ①平成 26 年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の 0.8% (317.5ha) であり、市街化区域面積は地区の 53.9% (171.1ha) となっています。
- ②平成 22 年国勢調査の地区人口は 5,089 人で、昭和 50 年の 4,335 人と比較して増加しています。世帯数は、昭和 50 年の 1,132 世帯から平成 22 年で 1,821 世帯と増加しています。1 世帯当たり人員は 2.8 人となっており、市平均の 2.4 人を上回っております。
- ③65 歳以上の人口割合は 18.4%と市平均 25.0%を下回っています。
- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成 47 年には本地区人口は約 5,400 人となることが予測されていますが、長期的には減少する見込みです。
- ⑤長崎港の臨海部及び木鉢町・小瀬戸町に市街地が形成されており、臨海部の埋立地に工業地を配し、その背後には住宅団地が形成されています。また、海や豊かな自然緑地が多く残っています

◎人口・世帯数の推移



⑥市民アンケート調査における項目別の必要な取り組み意向は以下の表のとおりで、市全体と比較して、住宅地の「空き家対策、リフォームの指導や支援」と答えた人の割合が高くなっています。また、「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、市全体と比較して「安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり」の回答割合が比較的高くなっています。

### ◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	①空き家対策 ②リフォームの指導や支援	身近な道路の整備・拡幅	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	①環境に配慮した公共施設の整備 ②住宅地やまちなみの緑化	自然災害対策
全市	34%	①31% ②32%	28%	32%	34%	①24% ②12%	28%
小櫛	40%	42%	31%	33%	42%	20%	30%

### ◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全市	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
小櫛	21人	11人	3人	1人	2人	1人	2人	1人
	100.0%	52.4%	14.3%	4.8%	9.5%	4.8%	9.5%	4.8%

凡例 1位 2位 3位

## 3) 地区の主要課題

### ①廃棄物等の処理、道路整備等による住環境の改善

皇后島周辺には鉄くず置き場等があり、環境面から適切な対応が求められています。計画的な住宅団地の住環境の保全と、旧来からの住宅地の狭あい道路等の住環境整備が必要です。

### ②中心部と結ぶ交通体系の整備

企業誘致など働く環境を整えるために、交通アクセスの整備が必要です。また、地区内の公共交通の維持が求められています。

### ③工業団地の利用促進、住環境との調和

神ノ島工業団地に未利用地が分布することから、土地の有効利用が求められています。快適な住環境を確保するために、港湾部の工業系土地利用と周辺の住宅地との調和が必要です。

### ④日常生活サービス機能の充実

地区の利便性を高めるため、木鉢地区などの商業・業務地における日常生活サービスの誘導を図る必要があります。

### ⑤自然環境の維持・保全、景観の維持・保全

高鉾風致地区や鼠島公園等に分布する、良好な緑地の維持・保全が必要です。併せて、神の島公園における眺望の維持、港湾部の景観の保全が必要です。

#### 4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

### みどりと工業地と住環境が調和した地区づくり

#### 5) 地区の生活像の目標

##### 住む：自然環境や工業と調和した住み良い快適な暮らしの確保

住宅地と工業地の間に整備されている緩衝緑地の維持・保全により住環境の保全を目指します。

##### 働く：工業を中心とした産業基盤の確保

神ノ島工業団地の未利用地の解消を目指します。

##### 動く：都心部・都心周辺部や周辺の生活地区と繋がる道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、都心部・都心周辺部や周辺の生活地区との公共交通による連携を図ります。

##### 集う：地域コミュニティの中心となる日常生活機能の確保

支所周辺における日常生活機能の確保を目指します。

##### 学ぶ・育む・やすらぐ

##### ：豊かな自然環境と工業地の調和

長崎港の玄関口として、工業地などの市街地と周辺の自然環境との調和に配慮した景観形成を目指します。

#### 6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	<p>■良好な住環境を維持・保全する</p> <p>①みなと坂など計画的に整備された住宅市街地においては、地区計画等を活用し、良好な住環境の維持・保全を図ります。</p> <p>■住み良い生活環境を確保する</p> <p>①住宅地と工業地の間に整備されている緩衝緑地等を維持・保全し、住環境を保全します。</p> <p>②既成市街地においては、生活道路や公園などの適切な維持・管理により、良好な住環境の維持・保全を図ります。</p>

住む	<p>③移転整備を完了した廃棄物処理施設である西工場については、周辺環境に配慮し、適正な維持・管理を図ります。</p> <p>④西部下水処理場は、中部下水処理場との統合に向けた機能の増設を図ります。</p>
働く	<p><b>■産業基盤を確保する</b></p> <p>①神ノ島工業団地の未利用地の活用を推進します。</p> <p>②港湾関連工業地においては、周辺環境に配慮した機能の維持・拡充を図るとともに、木鉢地区の危険物取扱施設は、隣接する住環境に配慮した適正な維持・管理を行います。</p> <p><b>■地域産業を確保する</b></p> <p>①神ノ島の漁港施設周辺において、水産関連施設などの整備・拡充を図ります。</p>
動く	<p><b>■安全で快適な道路を整える</b></p> <p>①広域アクセスの優位性による地域活性化を促進するため、木鉢インターチェンジの活用を図ります。</p> <p><b>■公共交通の利用を高める</b></p> <p>①地区内の主要な道路では、バスが運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p>
集う	<p><b>■地域コミュニティの中心となる日常生活機能を維持する</b></p> <p>①地域コミュニティの中心である小榊支所や木鉢地区の商業・業務地においては、日常的な生活サービスを維持し、不足する生活サービスについては都心部と連携することで補完を図ります。</p> <p><b>■交流施設を確保する</b></p> <p>①鼠島公園においては、自然環境を保全・活用した公園としての整備を図ります。</p> <p>②市民木鉢プールについては、西工場の余熱利用施設の整備により、新たな小榊小学校のプールとしても活用を図ります。</p> <p>③地区公民館等のコミュニティ施設については、地域活動の拠点として、近隣の既存施設（学校施設、空き施設等）を利用した複合化、多機能化や再配置等に取り組みます。</p>
学ぶ・育む・やすらぐ	<p><b>■良好な景観を誘導する</b></p> <p>①長崎港の玄関口として、神ノ島工業団地などの工業地等と周辺の自然環境との調和に配慮しながら、自然景観を保全します。</p> <p>②神の島公園においては、良好な眺望場所として維持・保全を図ります。</p> <p>③国指定史跡である四郎ヶ島台場跡は、保存管理計画に基づき保全に努めます。</p> <p><b>■みどり豊かな自然環境を守り育てる</b></p> <p>①高鉾風致地区をはじめ鼠島公園、西泊公園、神の島公園などの緑地は、良好な自然環境として維持・保全を図ります。</p> <p>②長崎港に面する良好な自然海岸線の保全を図ります。</p>





住む 廃棄物処理施設の適切な維持・管理

働く 工業団地の活性化  
未利用地の解消

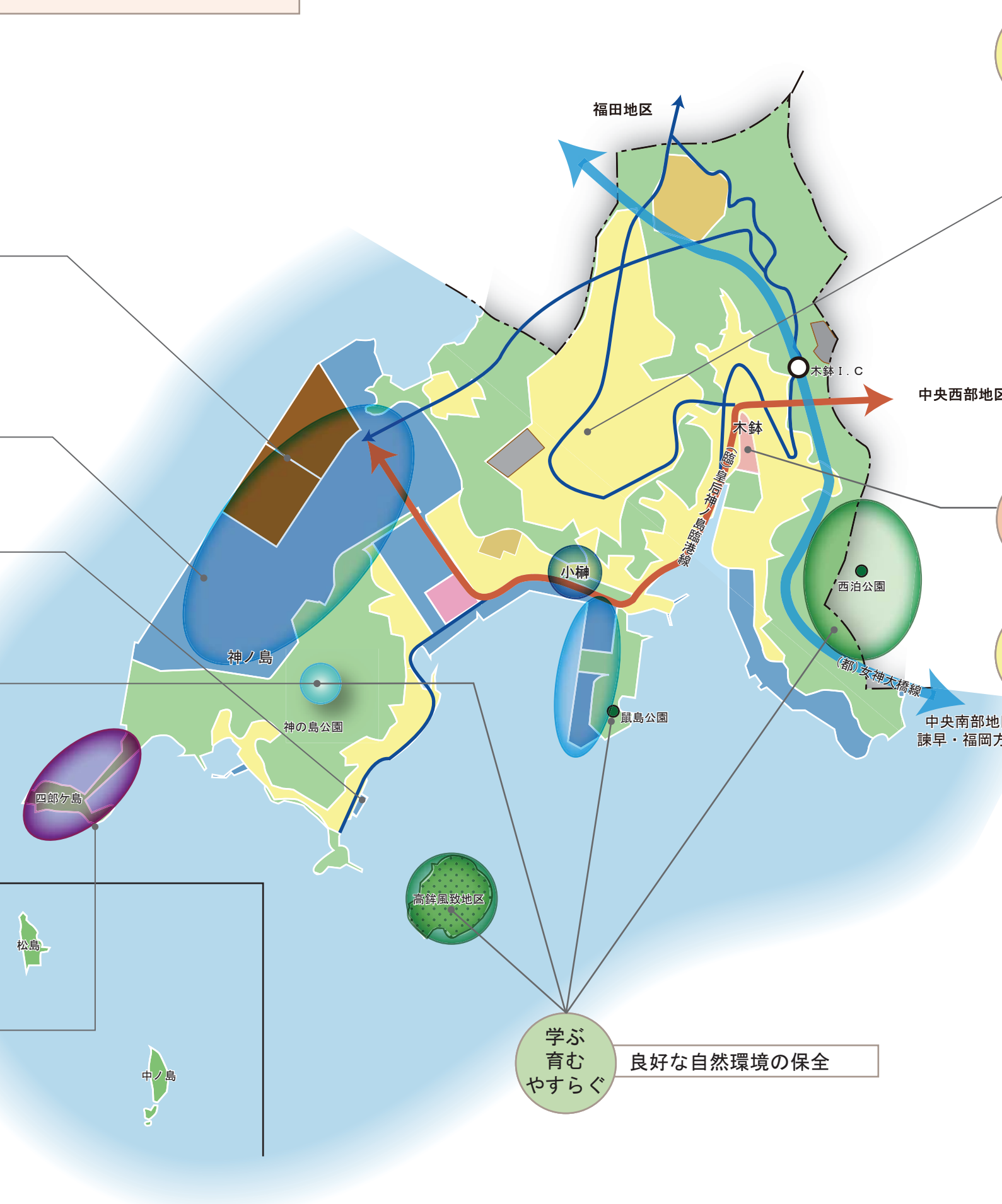
働く 水産業経営・生産基盤の強化



学ぶ 育む やすらぐ 眺望の保全（神の島公園）



学ぶ 育む やすらぐ 四郎ヶ島台場跡の保全



住む 良好な住宅市街地の維持・保全

集う 日常生活機能の維持（都心部連携）

住む 工業地との調和

学ぶ 育む やすらぐ 良好な自然環境の保全

【エリア】		【土地利用】		【道路・交通】	
● 都心部	● 産業エリア	● 斜面市街地	● 高速道路	● 主要幹線道路	● 新幹線
● 都心周辺部	● 歴史・文化・景観エリア	● 住宅地	● 自動車専用道路等 (計画・構想)	● 補助幹線道路	● 鉄道
● 地域拠点	● スポーツ・レクリエーションエリア	● 商業業務地	● 公園・緑地・自然環境の保全地	● 新幹線	● 路面電車
● 生活地区	● 緑のエリア	● 工業地・港湾	● 農地環境の保全地	● 鉄道	● 航路
		● 流通業務地	● その他	● 補助幹線道路 (計画・構想)	
		● 水面	● 学校教育施設	● 新幹線	
		● 学校教育施設	● 大規模公共施設	● 鉄道	
		● 大規模公共施設	● その他の施設	● 路面電車	
		● その他の施設	● 公園・風致地区	● 航路	
		● 公園・風致地区	● 農林水産資源		
		● 農林水産資源	● 地区界		
		● 地区界	● 都市計画区域界		
		● 都市計画区域界			

※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。

### 1) 地区の概況

- ①本地区は市の中心部の南側山稜地の外側に位置し、長崎港口の東側に面しています。臨海部や鹿尾川沿いの一部に平地がありますが、地区のほとんどが山林で構成されており平地の広がりには少ない状況にあります。
- ②江戸期は佐賀藩深堀領、深堀郷に属し半農半漁の村でしたが、昭和中期に長崎港口にある沿岸部が臨海工業地帯に指定され、海岸線の埋立と同時に埠頭の整備が行われ各種の企業が進出し、工業地化が進みました。
- ③中間部の丘陵地帯においては、住宅団地が整備されて急速に市街化が進みました。昭和13年に市域に編入されました。

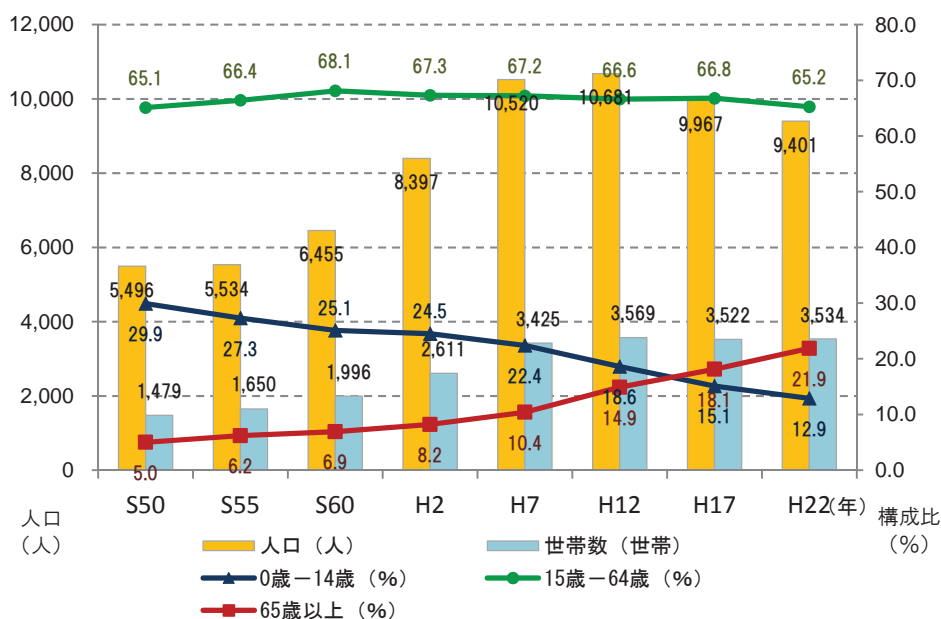
◎位置図



### 2) 地区の現況と特性

- ①平成26年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の1.1%（456.9ha）であり、市街化区域面積は地区の32.5%（148.5ha）となっています。
- ②平成22年国勢調査の地区人口は9,401人で、昭和50年の5,496人と比較して増加しています。世帯数は、昭和50年の1,479世帯から平成22年で3,534世帯と増加しています。1世帯当たり人員は2.7人となっており、市平均の2.4人を上回っています。
- ③65歳以上の人口割合は21.9%と市平均の25.0%を下回っています。
- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成47年には本地区人口は約5,900人まで減少することが予測されています。

◎人口・世帯数の推移



- ⑤長崎市南部の熊ヶ峰から長崎港に至る斜面地に市街地を形成しています。臨海部に工業地や住工混在地を配し、その後背となる熊ヶ峰山の斜面地に南長崎ダイヤモンドや小ヶ倉団地などの住宅団地が形成されています。
- ⑥市民アンケート調査における項目別の必要な取り組み意向は以下の表のとおりで、市全体と比較して、市街地の「地区の中心に日常サービスや居住を誘導」と答えた人の割合が特に高くなっています。また、「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、「安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり」の回答割合が最も高く、市全体と比較して「誰もが移動しやすいまちづくり」の回答割合が高くなっています。

### ◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	①無秩序な住宅開発の抑制 ②リフォームの指導や支援	①身近な道路の整備・拡幅 ②道路や橋などの点検・修繕	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	無秩序な開発の防止	防災マップや避難マニュアルなどの情報提供
全体	34%	①15% ②32%	①28% ②13%	32%	34%	19%	20%
小ヶ倉	43%	23%	19%	36%	36%	23%	34%

### ◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全体	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
小ヶ倉	37人	18人	4人	6人	4人	0人	5人	0人
	100.0%	48.6%	10.8%	16.2%	10.8%	0.0%	13.5%	0.0%

凡例 1位 2位 3位

## 3) 地区の主要課題

### ①道路等の住環境の整備、住宅団地の住環境の保全

地区には、狭あい道路等、住環境整備の課題があります。また、開発団地等の良好な住環境の保全が必要です。

### ②中央地域や南部地域、諫早市方面と結ぶ広域幹線道路の整備、公共交通の維持・充実

中央地域や南部地域、諫早市方面と円滑に結ぶため、広域的な道路交通網の整備が求められています。また、地区内の公共交通の維持・充実が必要です。

### ③臨海部の港湾機能の強化、工業の維持・充実

働く環境を整えるとともに工業振興を図るために、臨海部の港湾機能の強化、工業の維持・充実が求められています。

### ④生活サービス機能の充実

国道499号沿道に店舗などの生活サービス機能の確保が必要です。

### ⑤自然環境の保全

鹿尾ダム周辺に良好な自然環境が分布していることから、自然緑地の保全、自然景観の保全が必要です。

#### 4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

### 物流拠点としての臨海部とみどりが調和した地区づくり

#### 5) 地区の生活像の目標

##### 住 む：自然環境や工業と調和した住み良い快適な暮らしの確保

住宅地と工業地の間に整備されている緩衝緑地の整備により住環境の保全を目指します。

##### 働 く：物流を中心とした産業基盤の確保

臨海部の工業地において、港湾機能の強化を目指します。

##### 動 く：都心部・都心周辺部・地域拠点と繋がる道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、都心部・都心周辺部・地域拠点との公共交通による連携を図ります。

##### 集 う：地域コミュニティの中心となる日常生活機能の確保

支所周辺における日常生活機能の確保を目指します。

##### 学ぶ・育む・やすらぐ

##### ：豊かな自然環境と工業地の調和

臨海部の工業地においては、周辺の自然環境との調和に配慮し、鹿尾ダム周辺の良好な自然環境の保全を目指します。

## 6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	<p>■良好な住環境を維持・保全する</p> <p>①ダイヤランドなど計画的に整備された住宅市街地においては、地区計画等を活用し、良好な住環境の維持・保全を図ります。</p> <p>■住み良い生活環境を確保する</p> <p>①既成市街地においては、生活道路や公園などの適切な維持・管理により、良好な住環境の維持・保全を図ります。</p> <p>②住宅地と工業地の間に整備されている緩衝緑地等を維持・保全し、住環境を保全します。</p>
働く	<p>■産業基盤を確保する</p> <p>①臨海部の工業地においては、周辺の住環境に配慮した港湾機能の強化・拡充を図るとともに、危険物取扱施設用地と隣接する住環境に配慮した適正な維持・管理を行います。</p> <p>■地域産業を確保する</p> <p>①農業の経営・生産基盤の強化を図ります。</p>
動く	<p>■安全で快適な道路を整える</p> <p>①放射環状型幹線道路網を形成する都市計画道路長崎外環状線の整備を促進します。</p> <p>■公共交通の利用を高める</p> <p>①地区内の主要な道路では、バスが運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p>
集う	<p>■地域コミュニティの中心となる日常生活機能を維持する</p> <p>①地域コミュニティの中心である支所周辺や国道 499 号の沿道においては、日常的な生活サービスを維持し、不足する生活サービスについては都心部と連携することで補完を図ります。</p> <p>■交流施設を確保する</p> <p>①南部地区公園は、スポーツ・レクリエーション拠点として、適正な維持・管理を行います。</p> <p>②地区公民館等のコミュニティ施設については、地域活動の拠点として、近隣の既存施設（学校施設、空き施設等）を利用した複合化、多機能化や再配置等に取り組みます。</p>
学ぶ・育む・やすらぐ	<p>■良好な景観を誘導する</p> <p>①臨海部の工業地は、周辺の自然環境との調和に配慮し、また、市街地周辺の緑地や鹿尾ダム周辺などの良好な自然景観を保全します。</p> <p>■親しみのある水辺環境を創る</p> <p>①鹿尾ダム周辺の緑地については、水とみどり为一体となった良好な自然環境として保全します。</p>

(8) 小ヶ倉地区 地区別構想図 <中央地域>



住む 工業と住宅の調和

集う 日常生活機能の維持 (都心部連携)



動く 放射環状型幹線道路網の整備 (都)長崎外環状線の整備



- 【エリア】
- 都心部
  - 都心周辺部
  - 地域拠点
  - 生活地区
  - 産業エリア
  - 歴史・文化・景観エリア
  - スポーツ・レクリエーションエリア
  - 緑のエリア
- 【土地利用】
- 斜面市街地
  - 住宅地
  - 商業業務地
  - 工業地・港湾
  - 流通業務地
  - 公園・緑地・自然環境の保全地
  - 農地環境の保全地
  - その他
  - 水面
  - 学校教育施設
  - 大規模公共施設
  - その他の施設
  - 公園・風致地区
  - 農林水産資源
  - 地区界
  - 都市計画区域界
- 【道路・交通】
- 高速道路
  - 自動車専用道路等 (計画・構想)
  - 主要幹線道路 (計画・構想)
  - 補助幹線道路 (計画・構想)
  - 新幹線
  - 鉄道
  - 路面電車
  - 航路
- ※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。

### 1) 地区の概況

- ①本地区は市の南東部に位置し、東は橘湾に面しています。地区のほとんどが山林で構成されており、若菜川流域に一部平坦地があります。
- ②江戸期は肥前高来郡茂木村と呼ばれ、当初は島原藩領（ただし千々村は諫早領）でしたが、寛文 8 年（1668）幕府領となりました。明治維新後は長崎県に所属、大正 8 年に町制施行により茂木町となりましたが、昭和 37 年に市域に編入されました。

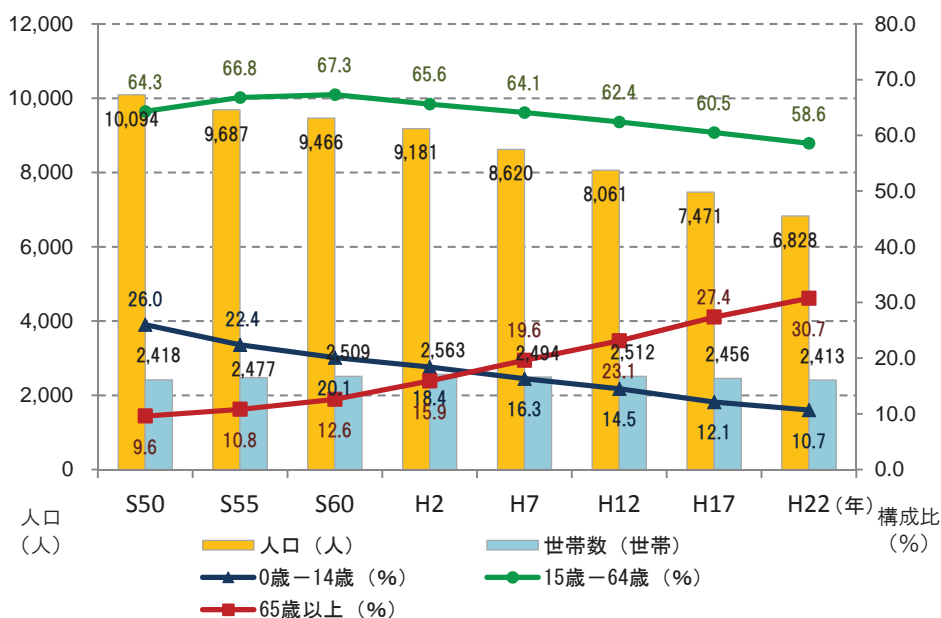
◎位置図



### 2) 地区の現況と特性

- ①平成 26 年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の 7.1%（2,890.9ha）であり、市街化区域面積は地区の 2.2%（63.8ha）となっています。
- ②平成 22 年国勢調査の地区人口は 6,828 人で、昭和 50 年の 10,094 人と比較して減少しています。世帯数は、昭和 50 年の 2,418 世帯から平成 22 年で 2,413 世帯と横ばいとなっています。1 世帯当たり人員は 2.8 人となっており、市平均の 2.4 人を上回っております。
- ③65 歳以上の人口割合は 30.7%と市平均 25.0%をやや上回っています。
- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成 47 年には本地区人口は約 4,000 人まで減少することが予測されています。
- ⑤地区中央部の茂木には漁業集落から発展した市街地が形成され、国道 324 号により長崎市中心部と連絡しています。市街地内には、中央を流れる若菜川を境にして、南側の住商混在地、北側の住宅地で構成されています。また、茂木港より天草方面への旅客船が発着しており、長崎市東の海の玄関口として機能しています。

◎人口・世帯数の推移



- ⑥主要地方道野母崎宿線に沿って傾斜地を利用した農地が広がり、海岸の入江部に太田尾町、飯香浦町、北浦町、宮摺町、大崎町、千々町などの集落が形成されています。
- ⑦橋湾に面する温暖な気候条件で、古くから漁業やビワ、みかんなどの生産で有名です。
- ⑧市民アンケート調査における項目別の必要な取り組み意向は以下の表のとおりで、ほとんどの項目で、市全体より高くなっています。また、「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、市全体と比較して「安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり」と答えた人の割合が高くなっています。

### ◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	企業立地などを促進する	空き家対策	身近な道路の整備・拡幅	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	環境に配慮した公共施設の整備	自然災害対策
全体	17%	31%	28%	32%	34%	24%	28%
茂木	33%	47%	36%	36%	46%	50%	39%

### ◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全体	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
茂木	17人	11人	3人	2人	1人	0人	0人	0人
	100.0%	64.7%	17.6%	11.8%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%

凡例 1位 2位 3位

## 3) 地区の主要課題

### ①狭あい道路等の住環境の整備

集落地においては狭あい道路などが見られるため、道路等の住環境の整備が必要です。

### ②周辺地区と結ばれる幹線道路交通網の整備

地形条件から周辺地区との結びつきを確保する必要があることから、中央地域の中央東部地区・中央南部地区、日見地区、三和地区などと結ばれる幹線道路網の整備が必要です。また、地区内を運行する公共交通の維持・充実が必要です。

### ③港湾機能の強化

長崎市東の海の玄関口として茂木港の港湾機能の強化が必要です。

### ④生活サービス機能の確保

地区住民の生活の利便性を高めるために、幹線道路沿道等に生活サービス施設の確保が必要です。

### ⑤自然環境の保全

唐八景風致地区や市民の森等の優れた緑地が分布していることから、その自然環境の保全が必要です。主要地方道野母崎宿線沿いの海岸と樹園地の調和ある景観の保全が必要です。



#### 4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

### 海とみどりの自然環境に調和した水産・農林業を主体とした地区づくり

#### 5) 地区の生活像の目標

##### 住む：自然環境と調和した住み良い快適な暮らしの確保

豊かな自然環境と調和した、良好な住環境の確保を目指します。

##### 働く：農業を中心とした地域産業の確保

地域産業の経営・生産基盤の強化を目指します。

##### 動く：東の海の玄関口としての広域アクセスの確保と、都心部・都心周辺部や周辺の生活地区と繋がる道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、都心部・都心周辺部や周辺の生活地区との公共交通による連携を図ります。

##### 集う：地域コミュニティの中心となる日常生活機能の確保

支所周辺における日常生活機能の確保を目指します。

##### 学ぶ・育む・やすらぐ

##### ：豊かな自然環境の保全

唐八景風致地区などの良好な自然環境の保全を目指します。

#### 6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	<b>■住み良い生活環境を確保する</b> ①既成市街地においては、生活道路や公園などの適切な維持・管理により、良好な住環境の維持・保全を図ります。 ②主要地方道野母崎宿線沿いに分布する集落地においては、生活道路や下水道などの整備を推進し、良好な住環境の形成を図ります。 ③安全・安心な水道水を効率的に供給するため、水道施設の統合整備を推進します。

働 く	<p>■雇用の場を確保する</p> <p>①国道 324 号や主要地方道野母崎宿線、臨港道路茂木港臨港線の沿道においては、周辺環境に配慮した生活サービス施設等の立地により、地域の雇用を確保します。</p> <p>■地域産業を確保する</p> <p>①ビワやみかんなどの特色ある農産物の産地として、また良好な漁場を活かし、農林水産業の経営・生産基盤の強化を図ります。</p> <p>②茂木港における港湾機能の強化を図ります。</p>
動 く	<p>■安全で快適な道路を整える</p> <p>①国道 324 号や主要地方道野母崎宿線の整備を促進し、周辺地区との連携の強化を図ります。</p> <p>②（仮）茂木バイパス（構想）については、整備効果等を見極めながら、長期的に検討します。</p> <p>■公共交通の利用を高める</p> <p>①地区内の主要な道路では、バスが運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p> <p>②茂木港旅客船発着所周辺は、長崎市東の海の玄関口として港湾機能の維持を図ります。</p>
集 う	<p>■地域コミュニティの中心となる日常生活機能を維持する</p> <p>①地域コミュニティの中心である支所周辺の商業・業務地においては、日常的な生活サービスを維持し、不足する生活サービスについては、都心部と連携することで補完を図ります。</p> <p>■交流施設を確保する</p> <p>①レクリエーション拠点として、唐八景公園やこしき岩公園の活用を図ります。</p> <p>②新しくなった日吉自然の家は、交流の場としての活用を図ります。</p> <p>③地区公民館等のコミュニティ施設については、地域活動の拠点として、近隣の既存施設（学校施設、空き施設等）を利用した複合化、多機能化や再配置等に取り組みます。</p> <p>④農山漁村地域の高齢者や女性などに生きがいや活躍の場を提供し、農水産業後継者の育成や遊休農地の解消等を図るため、グリーンツーリズム活動を推進し、地産地消や地域の活性化などを目指します。</p> <p>■観光に磨きをかける</p> <p>①「長崎さるく」等のまち歩き観光を推進するため、歴史の面影が感じられるまちなみを分かりやすく巡るルートづくりとともに、来訪者にやさしく分かりやすいサインの設置などに取り組みます。</p>
学ぶ・育む・やすらぐ	<p>■良好な景観を誘導する</p> <p>①茂木町の中心部、若菜川河口北部の神社境内の緑地は、茂木風致地区に指定されており、茂木市街地のシンボリックな緑地景観として保全します。</p> <p>②旅客船発着所周辺においては、海の玄関口としての景観形成を図ります。</p> <p>③主要地方道野母崎宿線沿いには、斜面地に樹園地が形成されており、特色ある良好な農地として、また、海と樹園地とが調和した良好な景観として保全します。</p> <p>■みどり豊かな自然環境を守り育てる</p> <p>①唐八景風致地区や茂木風致地区、潮見崎風致地区、市民の森、海岸沿いの山腹斜面地にひろがる樹園地などの緑地や自然海岸線は、良好な自然環境として保全します。</p> <p>②市民の森については、森林レクリエーションの場として施設の充実を図り市民利用を促進するとともに、市街地に隣接する良好な自然環境を有する緑地として維持・保全を図ります。</p>

(9) 茂木地区 地区別構想図

〈中央地域〉

住む 良好な住環境の維持・保全



動く 幹線道路の改良  
(主) 野母崎宿線



働く 農業経営・生産基盤の強化



働く 水産業経営・生産基盤の強化

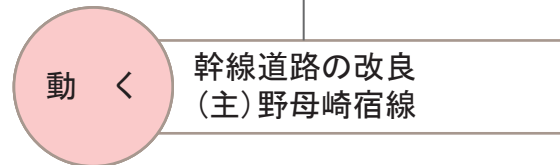


集う 日常生活機能の維持 (都心部連携)

学ぶ 育む やすらぐ 良好な自然海岸・緑地の保全



動く 幹線道路の改良  
(主) 野母崎宿線



【エリア】

- 都心部
- 都心周辺部
- 地域拠点
- 生活地区
- 産業エリア
- 歴史・文化・景観エリア
- スポーツ・レクリエーションエリア
- 緑のエリア

【土地利用】

- 斜面市街地
- 住宅地
- 商業業務地
- 工業地・港湾
- 流通業務地
- 公園・緑地・自然環境の保全地
- 農地環境の保全地
- その他
- 水面
- 学校教育施設
- 大規模公共施設
- その他の施設
- 公園・風致地区
- 農林水産資源
- 地区界
- 都市計画区域界

【道路・交通】

- 高速道路
- 自動車専用道路等 (計画・構想)
- 主要幹線道路 (計画・構想)
- 補助幹線道路 (計画・構想)
- 新幹線
- 鉄道
- 路面電車
- 航路

※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。

1) 地区の概況

- ①本地区は長崎港の南西約15km沖合に位置し、高島、飛島、中ノ島、端島（軍艦島）の4つの島から構成されています。唯一の有人島である高島については平地が少なく、島のほぼ中央部は山岳地となっています。
- ②本地区は江戸時代、佐賀藩深堀領に属し、廃藩置県により長崎県に属しました。その後、昭和23年に町制を施行し、昭和30年には隣接の高浜村端島と合併しました。
- ③石炭産業を唯一の基幹産業とした一島一町一企業という特殊な炭鉱依存型の自治体として、明治、大正、昭和にわたって栄えました。日本で初めて蒸気機関を動力とした「高島炭坑（北溪井坑跡）」は、「明治日本の産業革命遺産」の構成資産となっています。
- ④近年、地域の特性を活かした海洋レジャー施設などの整備により、交流人口の拡大を図り、併せて定住人口の確保や生活利便性の向上を図っています。
- ⑤平成17年1月4日に市域に編入されました。

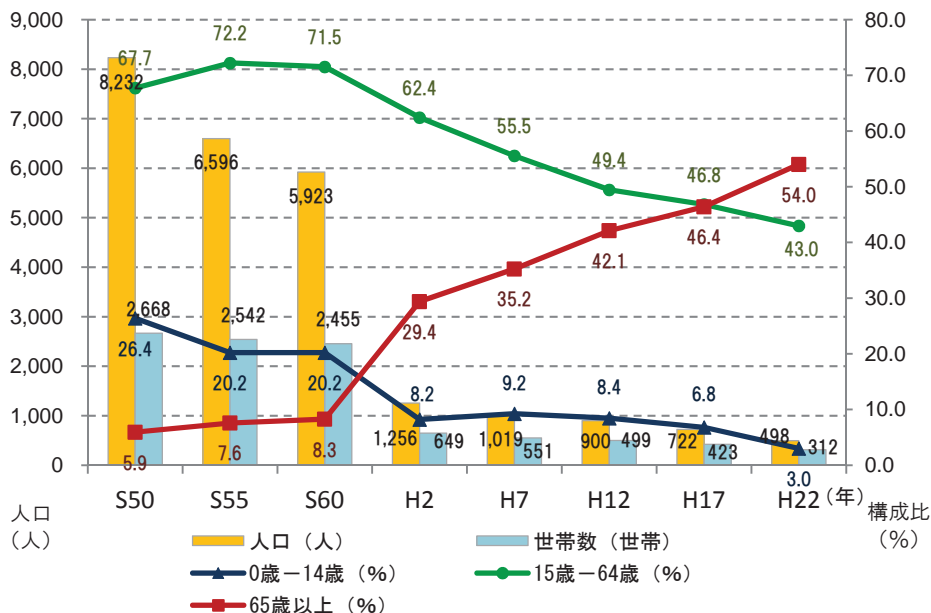
◎位置図



2) 地区の現況と特性

- ①平成26年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の0.3%（126.1ha）であり、地区全域が、区域区分（線引き）がない高島都市計画区域に指定されています。
- ②平成22年国勢調査の地区人口は498人で、昭和50年の8,232人と比較して減少しています。世帯数は、昭和50年の2,668世帯から平成22年で312世帯と減少しています。1世帯当たり人員は1.6人となっており、市平均の2.4人を下回っております。

◎人口・世帯数の推移



- ③65歳以上の人口割合は54.0%と市平均25.0%を大きく上回っています。
- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成47年には本地区人口は約100人まで減少することが予測されています。
- ⑤港周辺には、地区の拠点として行政センターや海水浴施設である「高島いやしの湯」、宿泊・研修施設である「しまの宿五平太」が立地しており、島北部の臨海地区にも、飛島磯釣り公園、海水浴場など、島南部にはふれあい多目的運動公園が立地し、地域の特性を活かした海洋レジャー施設やレクリエーション施設が整備されています。
- ⑥高島炭坑（北溪井坑跡）や端島炭坑（軍艦島）は国の史跡に指定されるとともに、「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界遺産に登録されています。
- ⑦市民アンケート調査における項目別の必要な取り組み意向は以下の表のとおりで、市全体と比較して、住宅の「リフォームの指導や支援」等と答えた人の割合が高くなっています。また、「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、市全体と比較して「安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり」、「働く環境が整ったまちづくり」の回答割合が特に高くなっています。

### ◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
<b>第1位</b>	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	リフォームの指導や支援	公共交通の便数や路線の充実	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	行政サービスを提供する支所、行政センターなど	水害やがけ崩れ対策の充実
<b>全体</b>	34%	32%	21%	32%	34%	24%	28%
<b>高島</b>	30%	55%	42%	43%	42%	30%	29%

### ◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
<b>全体</b>	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
<b>高島</b>	9人	4人	4人	0人	0人	0人	1人	0人
	100.0%	44.4%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%

凡例 1位 2位 3位

## 3) 地区の主要課題

### ①観光拠点形成、観光・交流ネットワークの形成

世界遺産の構成資産である高島炭坑（北溪井坑跡）や端島炭坑（軍艦島）を有していることから、これらを活用し、観光拠点として形成を図り、働く環境を整えるためにも、観光・交流ネットワークの形成を図ることが求められています。

### ②生活航路・観光・交流ネットワークのための海上交通の有効活用

長崎港と生活航路として結ばれ、伊王島、端島（軍艦島）等と結ぶ観光・交流ネットワークを維持するため、観光需要への対応等、海上交通網の活用が求められています。

### ③ 住みやすい生活環境整備

島内で安全で快適に生活できるために、道路や水道施設等の整備、空き家対策が必要です。

### ④ 日常生活サービス施設や交流施設等の維持

住民が安心して生活できるために、日常生活サービス施設や交流施設等の維持が求められています。

### ⑤ 歴史遺産の保存・整備・景観形成

高島炭坑（北溪井坑跡）や端島炭坑（軍艦島）は国の史跡に指定されるとともに、「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として世界遺産に登録されており、それらの保存や整備、景観形成が求められています。

### ⑥ 自然環境・自然景観の保全・整備

優れた自然海岸線、緑地が分布していることから、その保全・整備、自然景観の保全が求められています。

## 4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

**活力と賑わいのある身近な海洋レクリエーションの場と  
自然環境が調和した快適に定住できる地区づくり**

## 5) 地区の生活像の目標

### 住む：自然環境と調和した住み良い快適な暮らしの確保

豊かな自然環境と調和した、良好な住環境の確保を目指します。

### 働く：農業・水産業を中心とした地域産業の確保

地域産業の経営・生産基盤の強化を目指します。

### 動く：都心部・都心周辺部と繋がる公共交通ネットワークの確保

航路などの適切な運行により、都心部・都心周辺部の公共交通による連携を図ります。

### 集う：世界遺産を中心とした交流の促進と地域コミュニティの中心となる日常生活機能の確保

世界遺産の構成資産である高島炭坑（北溪井坑跡）や端島炭坑（軍艦島）の活用や、行政センター周辺における日常生活機能の確保を目指します。

### 学ぶ・育む・やすらぐ

#### ：豊かな自然環境と歴史的景観の保全

権現山公園などの良好な自然環境の保全や、北溪井坑跡やグラバー別邸跡周辺の景観の保全を目指します。

## 6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	<p>■<b>住み良い生活環境を確保する</b></p> <p>①既成市街地においては、生活道路や公園などの適切な維持・管理により、良好な住環境の維持・保全を図ります。</p> <p>②安全・安心な水道水を効率的に供給するため、水道施設の統合整備を推進します。</p>
働く	<p>■<b>地域産業を確保する</b></p> <p>①地域に密着した地方港湾として高島港の機能の維持・充実を図ります。</p> <p>②農水産業の経営・生産基盤の強化や地域特産品の育成を図ります。</p>
動く	<p>■<b>安全で快適な道路を整える</b></p> <p>①世界遺産等の来訪者の受け入れ態勢を強化する道路整備を推進します。</p> <p>■<b>公共交通の利用を高める</b></p> <p>①離島部における移動手段を確保するため、離島航路や島内バスの維持に努めます。</p>
集う	<p>■<b>地域コミュニティの中心となる日常生活機能を維持する</b></p> <p>①地域コミュニティの中心である行政センター周辺の商業・業務地においては、日常的な生活サービスを維持し、不足する生活サービスについては、都心部と連携することで補完を図ります。</p> <p>■<b>観光に磨きをかける</b></p> <p>①世界遺産の構成資産である高島炭坑（北溪井坑跡）や端島炭坑（軍艦島）について、世界遺産として活用を図るとともに、観光客受入態勢を整えます。</p> <p>②飛島磯釣り公園や海水浴場、ふれあい多目的運動公園をスポーツ・レクリエーション拠点として適正な維持・管理を図ります。</p> <p>③農山漁村地域の高齢者や女性などに生きがいや活躍の場を提供するため、グリーンツーリズム活動を推進し、地産地消や地域の活性化などを目指します。</p> <p>④「長崎さるく」等のまち歩き観光を推進するため、歴史の面影が感じられるまちなみを分かりやすく巡るルートづくりとともに、来訪者にやさしく分かりやすいサインの設置などに取り組みます。</p> <p>■<b>交流施設を確保する</b></p> <p>①高島いやしの湯については、適正な維持・管理を行います。</p> <p>②地区公民館等のコミュニティ施設については、地域活動の拠点として、近隣の既存施設（学校施設、空き施設等）を利用した複合化、多機能化や再配置等に取り組みます。</p> <p>③高島公園については、グラバー別邸跡の良好な景観を確保するため、適正な維持・管理を行います。</p>
学ぶ・育む・やすらぐ	<p>■<b>良好な景観を誘導する</b></p> <p>①高島炭坑（北溪井坑跡）やグラバー別邸跡の周辺は、景観形成重点地区として、景観を保全します。</p> <p>②海岸や山林等の自然環境に調和した景観を形成します。</p> <p>■<b>みどり豊かな自然環境を守り育てる</b></p> <p>①海浜、荒磯などの多様な海辺の景観や、良好な森林環境を有する中ノ島公園や権現山公園などの、海・山の自然環境や景観の保全を図ります。</p>

集う



世界遺産の保存・活用  
(北溪井坑跡)

学ぶ  
育む  
やすらぐ

景観形成重点地区  
(北溪井坑跡)

集う

日常生活機能の維持 (都心部連携)

集う



世界遺産の保存・活用  
(端島)

学ぶ  
育む  
やすらぐ

自然環境・景観の保全  
権現山公園



集う

レクリエーション拠点の活用  
飛鳥磯釣り公園・高島海水浴場



動く

基幹的な公共交通網の適切な維持  
(海上交通)



【エリア】

- 都心部
- 都心周辺部
- 地域拠点
- 生活地区
- 産業エリア
- 歴史・文化・景観エリア
- スポーツ・レクリエーションエリア
- 緑のエリア

【土地利用】

- 斜面市街地
- 住宅地
- 商業業務地
- 工業地・港湾
- 流通業務地
- 公園・緑地・自然環境の保全地
- 農地環境の保全地
- その他
- 水面
- 学校教育施設
- 大規模公共施設
- その他の施設
- 公園・風致地区
- 農林水産資源
- 地区界
- 都市計画区域界

【道路・交通】

- 高速道路
- 自動車専用道路等 (計画・構想)
- 主要幹線道路 (計画・構想)
- 補助幹線道路 (計画・構想)
- 新幹線
- 鉄道
- 路面電車
- 航路

※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。



# 各地区鳥瞰図



香焼地区



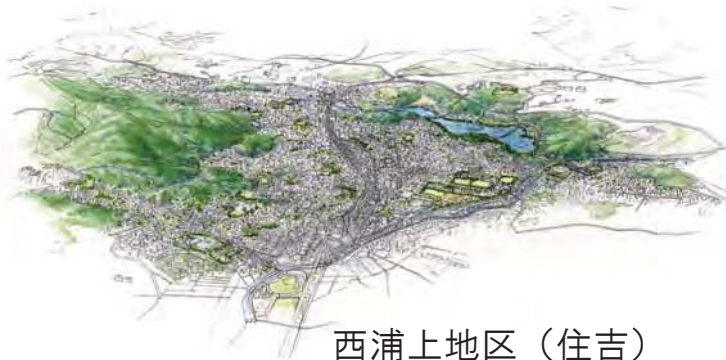
伊王島地区



三和地区



野母崎地区



西浦上地区 (住吉)